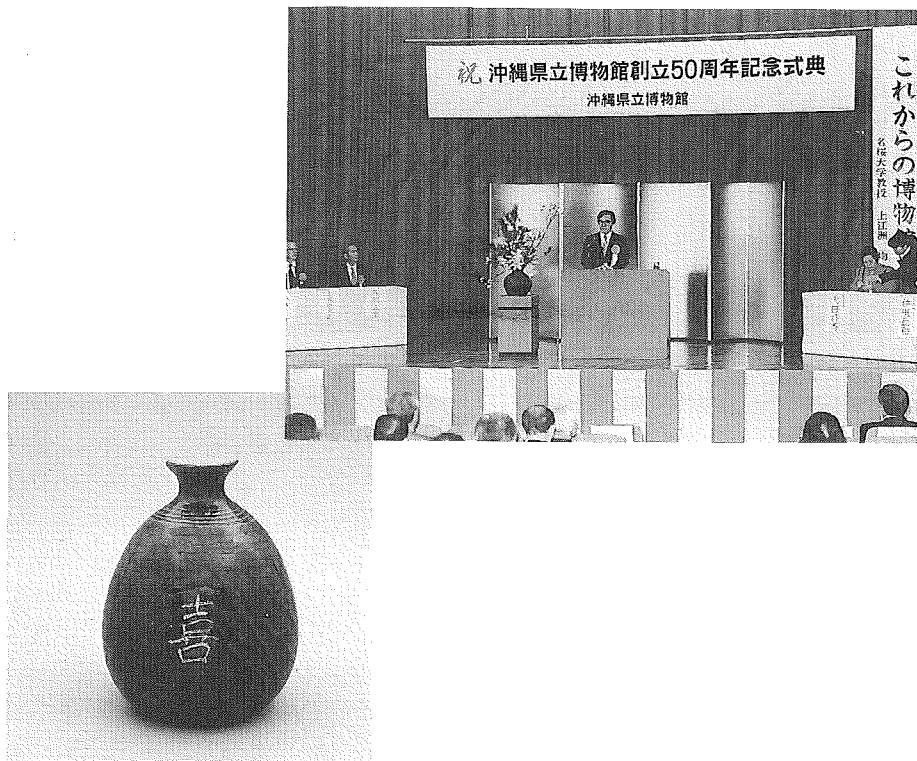


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 30



1997

沖縄県立博物館

序

平成8（1996）年度は、沖縄県立博物館が創設されてから50周年の記念すべき年となりました。終戦後、戦災文化財や被災を免れた文化財を収集する中で出発した当館は、数次にわたる移転、合併や移管とともに館名の変更を経ながら、今日に至っております。

平成8年度は、以下のような事業をおこないました。

創立50周年を記念し、沖縄県立博物館50周年記念事業を実施しました。事業内容は、『沖縄県立博物館50年史』の発刊、沖縄県立博物館50周年記念式典の開催、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」（12月3日～22日）の開催を企画しました。沖縄県立博物館創立50周年式典は、企画展開催中の12月6日に、約200名の関係者の方々の出席のもとに、当館で盛大に挙行されました。

特別展は、7月末日から9月1日まで、「大久米島展～しぜん・ひと・もの～」を開催しました。この特別展は、2年計画で実施しました久米島総合調査の成果を生かした、初の展示会でした。久米島の両村や関係者の協力の下に、ユニークな特別展となり、好評を博しました。

企画展は、10月22日から11月24日まで「平成7年度新収蔵品展」と「ワラザン展」を同時開催いたしました。ワラザン（藁算）は、栗田文子氏が復元製作した資料で、前年度、博物館に一括して寄贈されたことを感謝して開催しました。

第20回を迎えた移動博物館は、「大久米島展」と連動しながら会期終了後の、9月20日から22日までの間、久米島具志川村の農村環境改善センターで開催しました。文化講座は「下地原洞人を語る」と題して、札幌学院大学の佐倉朔氏が仲里村農村環境改善センターで講演し、地元の方々の関心を喚起しました。あわせて自然観察会もおこないました。

恒例の博物館文化講座は、第260回から第269回まで、計10回実施しました。また、夏休みの期間中には、「歩く、見る、作る」教室を開催し、「親子でスケッチをしよう」と「カーサムーチーを作ろう」を行いました。

子ども体験学習教室は、第1期は「川をさぐろう」、第2期は「グスクをたずねて」、第3期は「ふうたんをつくろう」、第4期は「わら算をつくろう」をそれぞれ実施し、子どもたちは野外学習や作品の完成に力を注いでいました。

博物館シアターはアニメシリーズと中国映画を計6回上映しました。後発の博物館シアターも事業として定着し、鑑賞者の注目を集めています。

今後とも、当館では特別展や企画展、文化講座、各種の教育普及的事業を充実させていく所存ですので、なお一層のご助言、ご協力をお願い申しあげます。

平成9（1997）年7月31日

沖縄県立博物館館長　當間一郎

目 次

序	館長 當間 一郎
I 概 要		
1 沿 革	1
2 施設・設備	3
3 組 織	5
4 予 算	7
II 入館者数		
1 入館者数	8
2 県内外児童生徒学生団体見学者	11
III 調査研究等の活動		
1 調査研究の概要	13
2 調査研究	13
3 講 演	15
4 著作論文	18
5 職員研修	20
IV 展示活動		
1 展示活動の概要	21
2 常設展	21
3 特別展	25
4 企画展	29
5 移動博物館	38
V 教育普及活動		
1 活動の概要	45
2 博物館文化講座	45
3 夏休み「歩く・見る・作る」教室	47
4 博物館シアター	48
5 子ども体験学習教室	49
6 ボランティア活動	50
7 博物館を利用した研修	52
VI 収蔵資料		
1 収蔵資料現在高	54
2 平成8年度（1996）新収蔵資料高	54
3 平成8年度（1996）新収蔵資料目録	55
4 所蔵国県指定文化財	57
5 博物館収蔵資料整理事業の概要	58
VII 刊行物	60
VIII 沖縄県立博物館50周年記念事業	61
IX その他の活動		
1 資料貸出	66
2 煙蒸処理	67
3 沖縄県立博物館協議会	67
4 沖縄県博物館協会	68
5 博物館実習	70
6 沖縄県立博物館友の会	71
X 日誌抄	74
XI 関係法規抄録	78

I 概 要

1 沿 革

〔前 史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創 設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発 展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

―― [主な事項] ――

- 昭和21年（1946） 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管となる。
- 昭和22年（1947） 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管、「沖縄民政府立首里博物館」と改称。
- 昭和28年（1953） 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。
- 昭和30年（1955） 9月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称。
- 昭和40年（1965） この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）購入。
- 昭和41年（1966） 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。
11月に開館。
- 昭和47年（1972） 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。
- 昭和48年（1973） 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増設。
- 昭和51年（1976） 4月、創立30周年記念式典を行う。
- 昭和55年（1980） 1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。
2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施。
11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。
- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録。
- 昭和57年（1982） 10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。
5月新たに常設展として自然部門を設ける。
- 昭和58年（1983） 10月、特別展「熊本県・沖縄交流展—熊本の歴史と文化」開催。
11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。

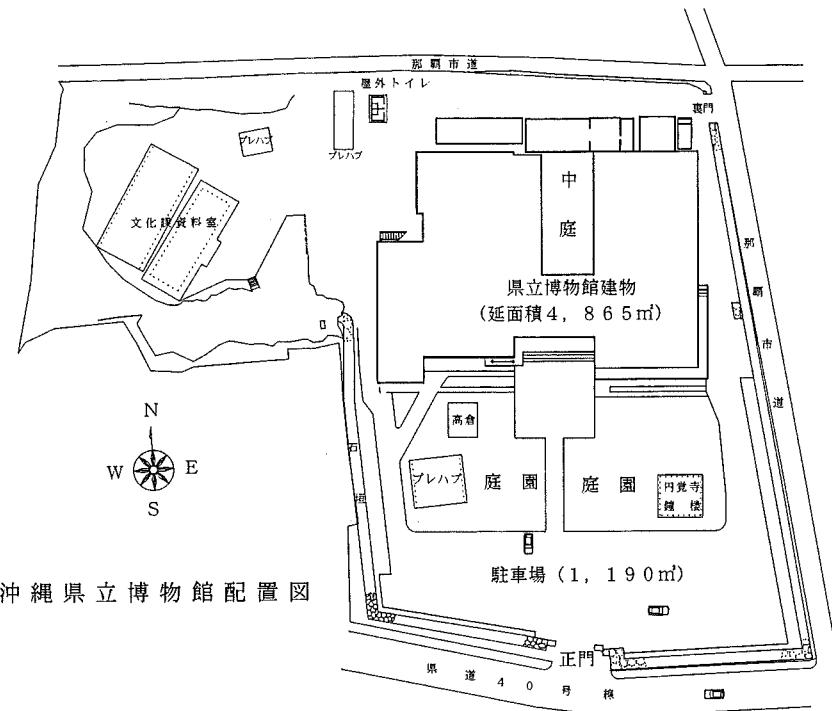
- 昭和61年(1986) 2月、特別展「美術工芸の美を求めて－大嶺薰コレクション」開催。
- 昭和62年(1987) 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画－物故作家」開催。
- 12月、企画展「田名家所蔵品展－ある首里士族の400年」開催。
- 12月、企画展「現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション」開催。
- 昭和63年(1988) 8月、特別展「ヤンバルの自然」を開催。
- 11月、特別展「三線名器 100挺展」開催。
- 平成元年(1989) 11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。
- 平成2年(1990) 1月、特別展「大アンデス文明展」開催。
- 平成3年(1991) 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
- 平成4年(1992) 6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。
- 8月、特別展「沖縄の貝類展」開催。
- 10月、特別展「琉球王国展」開催。
- 平成5年(1993) 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。
- 8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
- 平成6年(1994) 7月、特別展「子どもの世界」開催。
- 平成7年(1995) 6月、特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
- 平成8年(1996) 7月、特別展「大久米島展」開催。
- 12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催。

歴代館長

(東恩納博物館) 大嶺 薫 (昭和21・4～28・3)	(首里博物館) 豊平 良頤 (昭和22・12～23・3) 原田 貞吉 (昭和23・8～28・3)
--------------------------------	--

原田 貞吉 (昭和28・3～30・5)
 山里 永吉 (昭和30・3～33・8) (琉球政府立博物館)
 金城増太郎 (昭和33・9～36・12)
 大城 知善 (昭和37・2～44・11)
 外間 正幸 (昭和44・12～56・3) (沖縄県立博物館)
 大城徳次郎 (昭和56・4～58・3)
 大城 立裕 (昭和58・4～61・3)
 大城 宗清 (昭和61・4～平成4・3)
 宜保榮次郎 (平成4・4～6・3)
 糸数 兼治 (平成6・4～8・3)
 當間 一郎 (平成8・4～)

2 施設・設備



沖縄県立博物館配置図

施設の規模

●敷地面積	11,267 m ²
●建物延べ面積	4,865 m ²
1階及び講堂部分	2,893 m ²
2階部分	1,571 m ²
地下部分	401 m ²
●展示面積	1,590 m ²
1階	632 m ²
2階	958 m ²
●ロビー面積	256 m ²
●収蔵庫面積	858 m ²
●駐車場面積	1,190 m ²
●庭園面積	1,612 m ²
●講堂	632 m ²
客席数	215席
●空調機能能力	ヒートポンプ式チーリングユニット 125,000Kcal/h × 2基

エアハンドリングユニット 6基
パッケージ型エアコン

56,000Kcal/h × 1基
28,000Kcal/h × 1基
20,000Kcal/h × 1基
8,400Kcal/h × 1基
7,100Kcal/h × 2基
5,000Kcal/h × 2基
2,000Kcal/h × 1基
1,200Kcal/h × 1基

●受変電設備

電灯Tr 1φ3W 30KVA × 1基
電灯・動力Tr 3φ4W 100KVA × 1基
動力Tr 3φ3W 250KVA × 1基

●契約電力 204KW

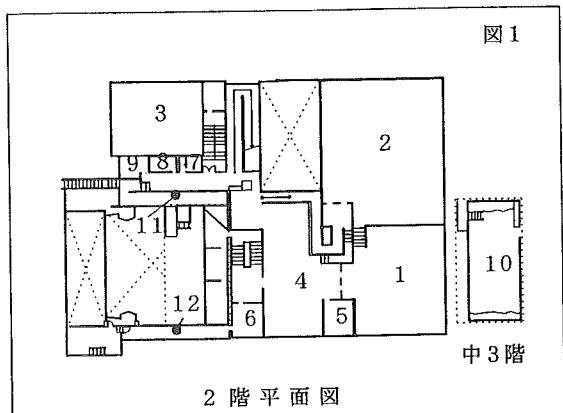


図 1

2階平面図

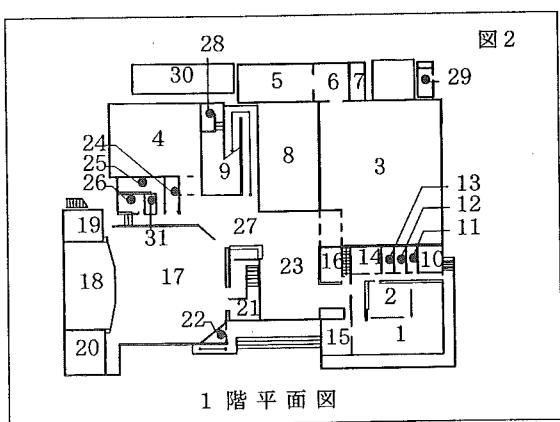


図 2

1階平面図

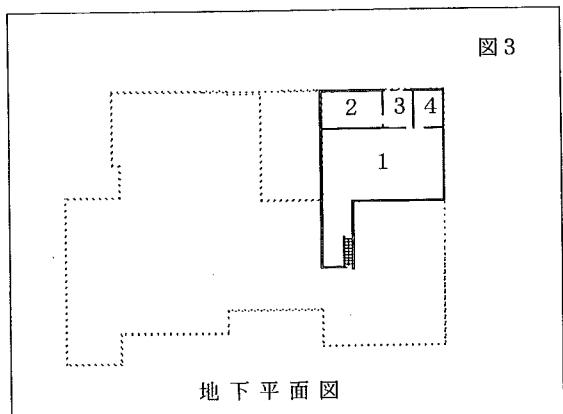


図 3

地下平面図

【2階】

番号

	室名	面積
1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436m ²
3	漆器収蔵庫	170m ²
4	企画展示室	257m ²
5	空調機械室	29m ²
6	コンピューター室	59m ²
7	化粧室(女)	6m ²
8	化粧室(男)	11m ²
9	空調機械室	12m ²
10	化石収蔵庫(中3階)	120m ²
11	貝類収蔵室	25m ²
12	陶器収蔵室	36m ²
13	その他	145m ²

【1階】

番号

	室名	面積
1	事務室	115m ²
2	会議室	96m ²
3	考古・歴史展示室	462m ²
4	自然史展示室	170m ²
5	収蔵庫	120m ²
6	荷解場	32m ²
7	陶磁器収蔵庫	11m ²
8	中庭	152m ²
9	逗子甕収蔵庫	91m ²
10	休憩室	11m ²
11	湯沸室	8m ²
12	化粧室(女)	7m ²
13	化粧室(男)	9m ²
14	図書室	28m ²
15	館長室兼応接室	28m ²
16	案内コーナー	18m ²
17	講堂(客席)	428m ²
18	ステージ	116m ²
19	控室	19m ²
20	控室	32m ²
21	講堂出入口	37m ²
22	守衛室	14m ²
23	ロビー	256m ²
24	倉庫	14m ²
25	化粧室(女)	21m ²
26	化粧室(男)	11m ²
27	友の会売店	10m ²
28	空調機械室	11m ²
29	消火栓ポンプ室	5m ²
30	逗子甕収蔵庫	75m ²
31	身障者用トイレ	6m ²

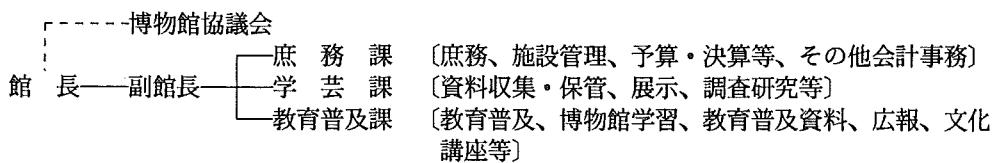
【地階】

番号

	室名	面積
1	収蔵庫	285m ²
2	空調機械室	58m ²
3	荷解場	28m ²
4	受変電設備	30m ²

3 組織

(1) 機構



(2) 職員構成

平成9年4月1日現在

職名	氏名	担当業務
館長	當間一郎	博物館業務の総理に関すること。
副館長	新垣隆雄	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

庶務課

課長	上地泰順	庶務課の統轄、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、職員研修計画、その他庶務に関すること。
主査	玉元妙子	歳入、会計事務（旅費・報償費・超勤手当）、消耗品の受入、出勤簿整理、諸手当の認定、賃金職員の申請、図書類受入、切手等の管理に関すること。
"	平安名寿賀子	給与、会計事務（旅費・報償費・超勤手当等を除く）、決算、文書等の收受に関すること。
主任(技師)	吉里功	施設設備の保守管理、全館燻蒸、車両の管理、その他庶務に関すること。

学芸課

主幹兼課長	當眞嗣一	学芸業務の統轄、考古資料、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖博協に関すること。
指導主事(充)	与那城義春	自然史資料（植物・動物）、アルゼンチンの大恐竜展、新収蔵品展、総合調査、図書資料購入、教育普及書、博物館紀要の発行に関すること。
"	神谷厚昭	自然史資料（地質・化石）、アルゼンチンの大恐竜展、化石資料整理、沖博協の書記・会計に関すること。
指導主事(充)	津波古聰	美術工芸資料（絵画・漆器・陶器）、収蔵資料整理（写真等）、新収蔵品展、沖縄館資料移管に関すること。
"(充)	嵩原建二	自然史資料（植物・動物）、収蔵資料整理（管理システム）、教育普及書、剥製標本作製に関すること。
学芸員	萩尾俊章	歴史資料、レプリカ作成、博物館資料購入、博物館資料修理、博物館年報の発行に関すること。
"	與那嶺一子	美術工芸資料（染織・書跡）、収蔵品台帳、博物館資料・写真資料貸出、レプリカ作成、博物館資料購入、博物館資料修理、博物館年報の発行に関すること。

学芸課

職名	氏名	担当業務
指導主事 (充)	太田 健一	民俗資料、収蔵資料整理（厨子甕等）、沖縄館資料移管に関すること。

教育普及課

課長	前田 真之	教育普及業務の統轄、友の会への指導に関すること。
指導主事 (充)	瑞慶山 昇	美術工芸資料（彫刻）、アルゼンチンの大恐竜展、移動博物館、博物館シアター、視聴覚機器整備、全館燻蒸、ポスター・チラシ等の作成に関すること
"	仲底 善章	子供体験学習教室、ボランティア活動事業、博物館学習の助言・調整、団体見学の対応、博物館展示リーフレットの作成、図書資料購入、子供からの手紙相談に関すること。
学芸員補 (臨任)	仲間留美	文化講座、広報活動（マスコミ等）、夏休み歩く見る教室、視聴覚資料（ビデオ）の保全・管理、教育普及に関する情報・提供、考古に関すること

非常勤職員

教育普及補助員	上原 敏子 喜久川 智子	教育普及、展示解説、寄贈図書類受入に関するこ
監視員	東城 美智子 新城 民子 新城 良子	受付補助及び展示場監視に関するこ。
	小橋川 敏子 松田 昌子 比嘉 春子	展示場監視に関するこ。
緑化整備員	渡慶次 紫宝	緑化整備に関するこ。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子 多和田 啓慶子	博物館友の会の庶務会計に関するこ。
-------	-------------------	-------------------

(3) 人事異動

平成9年4月1日

職名	氏名	摘要
〈転出〉副館長 主査	真玉橋 長俊 友利 力ズ	教育庁・実習船運営事務所所長へ定年退職
〈転入〉副館長 主査	新垣 隆雄 平安名 寿賀子	教育庁・福利課課長補佐から（昇任） 教育庁・那覇教育事務所副主査から（昇任）

4 予 算

平成 8 年度博物館費（決算）

(単位；円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	139,500	0	139,500
賃金	0	3,544,480	3,544,480
報償費	0	1,588,740	1,588,740
旅費	1,615,123	5,731,340	7,346,463
需用費	20,529,906	21,747,761	42,277,667
役務費	614,043	10,255,447	10,869,490
委託料	19,274,392	22,653,050	41,927,442
使用料及び賃貸料	1,188,000	1,770,093	2,958,093
工事請負費	0	0	0
備品購入費	8,980,905	3,218,556	12,199,461
負担金補助及び交付金	75,000	2,884,000	2,959,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	52,435,769	73,393,467	125,829,236

平成 8 年度歳入状況（決算）

(単位；円)

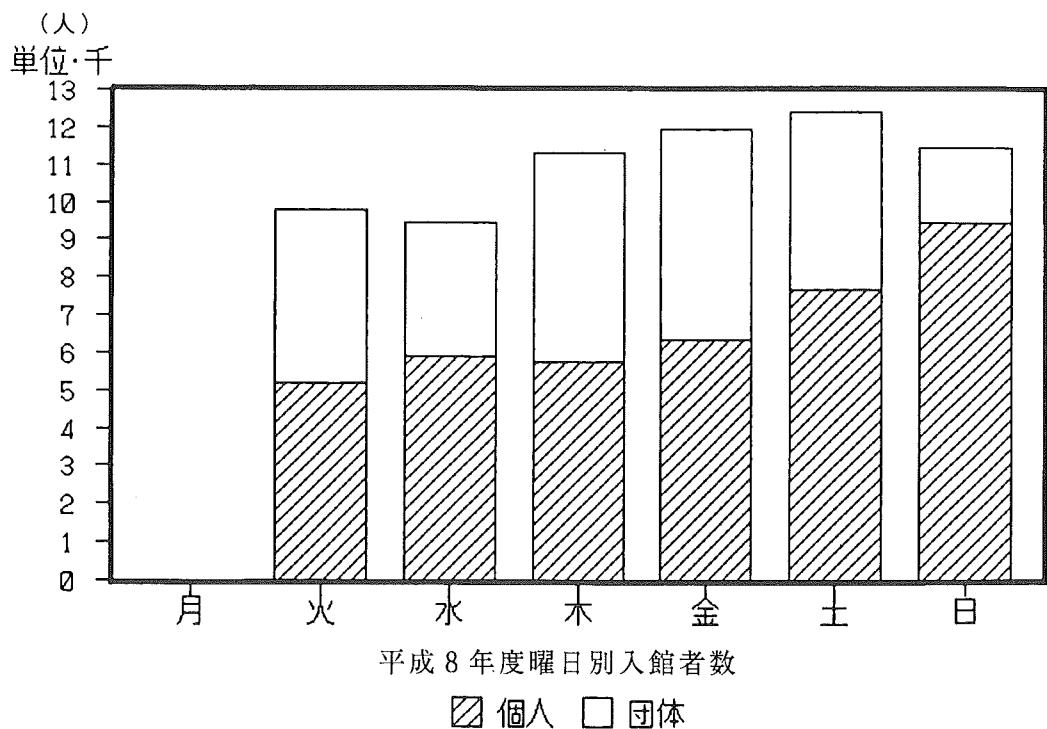
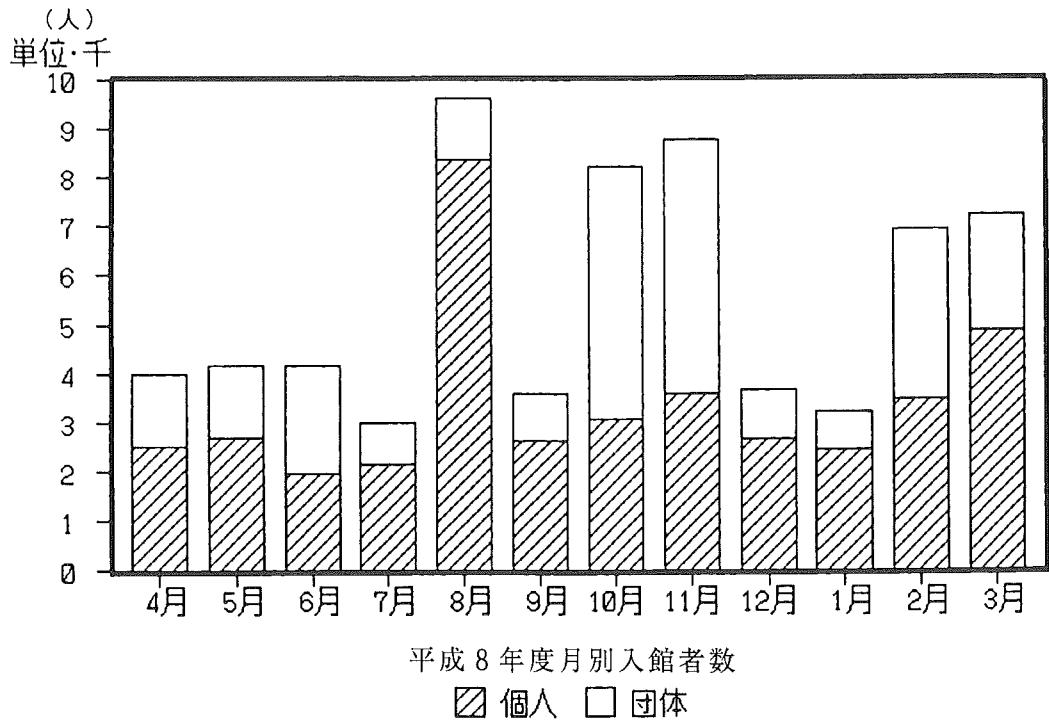
	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	10,377,250	10,377,250
土地使用料	13,548	0	13,548
建物使用料	26,223	0	26,223
雑入	129,206	0	129,206
合計	168,977	10,377,250	10,546,227

II 1 入館者数
入館者別集計 (平成8年4月1日～平成9年3月31日)

	個人	入館者数	団体入館者数												合計											
			大人		高人生		小中生		合計		大人		高人生		小中生		合計		大人		高人生		小中生		合計	
			有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)		
8年	4月	2,139 (0)	132 (0)	200 (33)	2,471 (33)	172 (24)	395 (0)	181 (15)	748 (749)	2,311 (24)	527 (0)	381 (748)	3,219 (772)	24	166											
	5月	2,324 (0)	118 (1)	166 (94)	2,608 (95)	207 (19)	375 (0)	98 (61)	680 (780)	2,531 (19)	493 (1)	264 (855)	3,288 (875)	25	167											
	6月	1,566 (0)	89 (0)	289 (21)	1,944 (21)	231 (0)	944 (0)	233 (804)	1,408 (804)	1,797 (0)	1,033 (0)	522 (825)	3,352 (825)	21	199											
	7月	1,669 (12)	242 (0)	228 (0)	2,139 (12)	267 (13)	291 (52)	0 (85)	558 (295)	1,936 (30)	533 (92)	228 (185)	2,697 (307)	19	158											
	8月	5,470 (343)	837 (0)	1,734 (0)	8,041 (343)	584 (0)	76 (0)	353 (241)	1,013 (241)	6,054 (343)	913 (0)	2,087 (241)	9,054 (584)	27	357											
	9月	2,006 (99)	371 (0)	124 (17)	2,501 (116)	60 (31)	284 (0)	142 (406)	486 (491)	2,066 (130)	655 (54)	266 (423)	2,987 (607)	16	225											
	10月	2,507 (1)	415 (1)	74 (49)	2,996 (51)	244 (73)	2,149 (0)	824 (1,871)	3,217 (1,949)	2,751 (79)	2,564 (1)	898 (1,920)	6,213 (2,000)	26	316											
	11月	2,884 (7)	549 (0)	121 (36)	3,534 (43)	549 (1)	1,219 (0)	641 (2,781)	2,469 (2,782)	3,413 (8)	1,768 (0)	762 (2,817)	5,943 (2,825)	25	351											
	12月	2,196 (14)	246 (0)	177 (30)	2,619 (44)	350 (43)	94 (15)	122 (372)	566 (430)	2,546 (57)	340 (15)	299 (402)	3,185 (474)	22	166											
	9年	1月	1,974 (0)	173 (0)	220 (85)	2,367 (85)	60 (0)	24 (180)	75 (444)	159 (634)	2,034 (0)	197 (190)	295 (529)	3,526 (719)	22	148										
		2月	2,637 (0)	554 (0)	133 (141)	3,324 (141)	444 (13)	494 (0)	203 (2,304)	1,141 (322)	3,081 (18)	1,048 (0)	336 (2,445)	4,465 (2,463)	23	301										
		3月	3,769 (0)	659 (0)	382 (62)	4,810 (62)	701 (19)	453 (0)	335 (443)	1,489 (862)	4,470 (19)	1,112 (0)	717 (905)	6,299 (924)	25	289										
		合計	31,121 (476)	4,385 (2)	3,848 (568)	39,354 (1,046)	3,869 (251)	6,798 (351)	3,207 (11,727)	13,874 (12,329)	34,990 (727)	11,133 (353)	7,055 (42,295)	53,228 (13,375)	275											
		総計	31,597	4,387	4,416	40,400	4,120	7,149	14,394	26,263	35,717	11,536	19,350	66,603	275	242										

入館者曜日別集計

	個人	入館者数	団体入館者数												合計						合計					
			大人		高人生		小中生		合計		大人		高人生		小中生		合計		大人		高人生		小中生		合計	
			有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)		
	月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	火	4,183 (27)	587 (0)	390 (0)	5,160 (27)	560 (31)	1,611 (205)	249 (1,935)	2,420 (2,111)	4,743 (68)	2,198 (205)	639 (1,935)	7,580 (2,198)	44	222											
	水	4,395 (25)	910 (0)	558 (0)	5,863 (25)	238 (42)	772 (92)	461 (1,928)	1,471 (2,062)	4,633 (67)	1,682 (92)	1,019 (1,928)	7,334 (2,087)	47	200											
	木	4,462 (55)	760 (0)	485 (0)	5,707 (56)	513 (87)	1,320 (54)	625 (2,989)	2,458 (3,130)	4,975 (143)	2,080 (54)	1,110 (2,989)	8,165 (3,186)	46	247											
	金	4,384 (62)	700 (0)	589 (0)	6,273 (62)	977 (52)	1,196 (0)	886 (2,594)	3,059 (2,556)	5,961 (114)	1,886 (0)	1,475 (2,504)	9,332 (2,618)	47	254											
	土	5,622 (143)	830 (2)	533 (540)	6,985 (685)	856 (7)	1,183 (0)	666 (2,032)	2,705 (2,089)	6,478 (150)	2,013 (2)	1,199 (2,572)	9,690 (2,724)	44	282											
	日	7,386 (163)	595 (0)	1,293 (0)	9,274 (163)	704 (32)	624 (0)	320 (339)	1,648 (371)	8,090 (195)	1,219 (0)	1,613 (339)	10,922 (534)	46	249											
	合計	31,032 (476)	4,332 (2)	3,848 (540)	39,262 (1,018)	3,848 (251)	6,706 (351)	3,207 (11,727)	13,761 (12,329)	34,880 (727)	11,088 (353)	7,055 (42,267)	53,023 (13,347)	274	242											



団体入館者数(有料)

年 月	県				内				県 外				国 外				外		合 計						
	大人		高大生		小中生		小計		大人		高大生		小中生		小計		大人		高大生						
	团 体 人 数 数																								
平成8年4月	4	114	0	0	10	4	124	2	58	4	395	3	171	9	624	0	0	0	0	0	13	748			
5月	3	103	2	88	2	66	7	257	2	73	2	287	1	32	5	392	1	31	0	0	1	31	13		
6月	3	112	1	20	5	232	9	364	2	78	6	922	0	8	1,000	2	41	2	1	2	44	19	1,408		
7月	5	209	0	0	0	5	209	1	21	2	291	0	0	3	312	1	37	0	0	0	1	37	9		
8月	12	88	1	297	12	386	11	496	1	40		56	12	592	0	0	1	35	0	0	1	35	25		
9月	1	22	0	0	0	1	22	1	38	3	284	1	142	5	464	0	0	0	0	0	0	0	6		
10月	3	84	0	0	2	196	5	280	4	127	15	2,149	6	628	25	2,904	1	33	0	0	0	1	33	31	
11月	8	365	2	52	43	10	460	6	184	8	1,219	4	598	18	2,001	0	0	0	0	0	0	0	2,461		
12月	4	216	0	2	68	6	284	5	134	1	42	2	54	8	230	0	0	0	0	0	0	0	14		
平成9年1月	2	60	0	0	3	2	63	0	0	1	24	1	72	2	96	0	0	0	0	0	0	0	159		
2月	4	138	1	20	2	175	7	333	8	306	3	474	1	28	12	808	0	0	0	0	0	0	19	1,141	
3月	8	369	0	0	3	76	11	445	8	332	4	453	1	259	13	1,044	0	0	0	0	0	0	24	1,489	
合 計	57	1,880	6	181	16	1,166	79	3,227	50	1,847	50	6,580	20	2,040	120	10,467	5	142	1	37	0	1	6	180	205
																						13,874			

移動博物館入館者数(1,873人)

2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 11,081名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	16	小禄小学校	223名	10	24	具志川小学校	73名	1	22	上田小学校	155名
	20	天妃小学校	125名		25	久部良小学校	10名		29	とよみ小学校	96名
	20	松島小学校	143名		25	本部小学校	171名	2	5	西原小学校	120名
	25	津波小学校	89名		25	安富祖小学校	19名		6	光洋小学校	128名
	26	浦添小学校	124名		25	羽地小学校	85名		6	高嶺小学校	65名
5	1	西原南小学校	73名		25	上本部小学校	47名		7	沢紙小学校	125名
	2	南風原小学校	90名		25	赤道小学校	138名		12	讃名小学校	150名
	2	城中学校	126名		25	大宜味小学校	16名		13	城岳小学校	130名
	2	光洋小学校	136名		25	瀬底小学校	9名		14	安和小学校	14名
	8	カデナエレムスクール	54名		29	西崎小学校	165名		14	前田小学校	112名
	17	多良間小学校	26名		31	宮森小学校	126名		14	キンザエレムスクール	71名
	18	沖縄カトリック小学校	8名		31	久米島小学校	51名		14	宇栄原小学校	117名
	18	真地小学校	112名	11	1	与那城小学校	154名		15	大名小学校	62名
	23	鏡原小学校	29名		1	宮原小学校	6名		15	松川小学校	140名
	28	西城小学校	38名		1	大北小学校	118名		18	高良小学校	181名
	30	南小学校	149名		2	大宮小学校	173名		19	天妃小学校	128名
6	1	讃名小学校	160名		5	山内小学校	143名		20	真地小学校	95名
	1	北小学校	94名		5	仲里小学校	36名		21	安耐小学校	107名
	4	砂川小学校	26名		6	奥間小学校	31名		25	与儀小学校	106名
	4	ピクトルエレムスクール	100名		7	与那原小学校	132名		26	白川小学校	120名
	5	清水小学校	52名		7	大山小学校	199名		27	小禄小学校	105名
	6	名蔵小学校	21名		7	佐手小学校	10名		27	神原小学校	120名
	6	下地小学校	54名		7	与那原東小学校	113名		28	古蔵小学校	146名
	15	座間味小学校	21名		7	北玉小学校	91名	3	1	真和志小学校	125名
	15	伊良部小学校	50名		7	北谷小学校	106名		1	城北小学校	147名
	20	石垣小学校	91名		8	仲泊小学校	35名		4	松島小学校	161名
	20	上野小学校	53名		8	西小学校	61名		5	琉大附属小学校	117名
	21	東江小学校	162名		8	今帰仁小学校	69名		5	若狭小学校	99名
	26	新川小学校	167名		13	船越小学校	48名		11	城南小学校	105名
7	6	大道小学校	160名		14	牧港小学校	120名		14	垣花小学校	72名
9	19	城辺小学校	37名		14	真喜屋小学校	31名				
	26	古見小学校	6名		15	佐敷小学校	84名				
10	4	山田小学校	32名		15	有銘小学校	10名				
	8	塙屋小学校	17名		16	漢那小学校	17名				
	17	喜如嘉小学校	20名		16	石嶺小学校	159名				
	17	玉城小学校	53名		19	当山小学校	179名				
	18	伊平屋小学校	29名		20	源河小学校	14名				
	18	久志小学校	16名		20	与那国小学校	29名				
	18	室川小学校	109名		20	伊豆味小学校	11名				
	18	稻田小学校	30名		21	屋我地小学校	20名				
	18	百名小学校	42名		22	伊江小学校	43名				
	18	天底小学校	38名		26	泊小学校	163名				
	19	沖縄カトリック小学校	70名		27	美崎小学校	38名				
	20	和光小学校	114名	12	6	楚州小学校	4名				
	23	北美小学校	121名		7	城東小学校	105名				
	23	宮里小学校	133名		8	鳩間小学校	2名				
	23	屋部小学校	66名		11	白浜小学校	5名				
	23	金武小学校	83名		12	津波小学校	22名				
	24	久辺小学校	39名		13	兼次小学校	32名				
	24	辻士名小学校	47名		13	松田小学校	24名				
	24	宜野座小学校	49名	1	10	三育小学校	21名				
	24	嘉芸小学校	33名		18	城西小学校	154名				

(中学校) 2,684名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	20	喜界第一中学校	80名	10	18	海星中学校	105名	12	12	真和志中学校	22名
	20	早町中学校	41名		22	兼城中学校	127名	16	16	具志頭中学校	12名
	25	常金中学校	49名		24	聖ウルスラ学院中学校	65名	1	21	河内中学校	72名
5	17	本町中学校	32名	11	7	西条中学校	180名	2	14	レスター・ミドルスクール	121名
8	4	久米島中学校	27名		16	大矢野中学校	227名	20	20	青陵中学校	28名
9	1	港川中学校	325名		21	九州女子学院中学校	60名	3	8	成城中学校	249名
	25	東明館中学校	142名		27	矢部中学校	181名				
10	4	合志中学校	301名		29	山内中学校	211名				
	4	甲山中学校	37名	12	11	切串中学校	40名				

(高等学校) 6,363名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	11	お茶の水女子大学附属高校	129名	11	7 淀徳堀鴨高校	134名		
	21	波板高等学校	159名	9	淀徳堀鴨高校	142名		
	24	聖ドミニコ学園高等学校	83名	16	立教女子大学附属高等学校	141名		
	24	都立南多摩高校	24名	17	香住高校	114名		
5	23	神奈川大学附属高等学校	195名	19	住吉高校	282名		
6	19	高松東高等学校	222名	12	5 クバサキハイスクール	26名		
	21	高松東高等学校	195名	17	小様高等学校	15名		
	27	九州産業高等学校	153名	18	京都女子高等学校	42名		
	28	九州産業高等学校	156名	1	県立南部農林高等学校	190名		
	29	九州産業高等学校	158名	17	大原高校	24名		
7	2	九州産業高等学校	169名	2	6 和歌山西高校	303名		
8	31	成蹊高等学校	31名	13	岐阜商業高等学校	104名		
9	27	長野西高等学校	76名	3	1 潤徳女子高等学校	114名		
	28	両津高等学校	167名	4	潤徳女子高等学校	127名		
10	1	城北工業高校	25名	11	愛知産業大学三洞高校	181名		
	15	川崎市立総合科学高校	29名					
	17	天草養護学校高等部	22名					
	20	高瀬高等学校	236名					
	22	宇都西高等学校	154名					
	22	都立小川高等学校	312名					
	23	都立藤沢高等学校	228名					
	24	ノートルダム清心高等学校	202名					
	25	東京農業大学第一高校	242名					
	25	宇都西高等学校	71名					
	26	東京農大第一高校	201名					
	26	大妻嵐山高校	273名					
	29	千福高等学校	69名					
	30	名古屋学院高校	85名					
11	1	都立雪谷高校	290名					
	1	菊地女子高校	68名					

(大学・専門学校) 679名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名
5	8	沖縄国際大学	25名	7	9 福岡女子短期大学	122名	12	3 沖縄大学
	22	琉球大学	63名	8	9 沖縄ビジネス日本語学校	35名	2	1 ベティホフマンメリーランド大学
	25	東海工業専門学校	92名	9	12 国士館大学	41名	25	郡山女子短期大学
6	8	ベティホフマンメリーランド大学	20名	26	沖縄県立芸術大学	54名	3	29 神戸山手女子短期大学
	28	慈恵青戸看護専門学校	38名	11	19 實践女子大学	48名		

(特殊学校・その他) 657名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名
4	13	ほしの子保育園	12名	11	14 浜川幼児教育園	16名		
7	9	長田保育園	25名	14	14 小川保育園	16名		
8	1	城北児童クラブ	9名	12	3 沖縄女子短期大学附属報恩幼稚園	72名		
	6	津嘉山学童	24名	5	りんご保育園	26名		
	7	浜川幼児教育園	9名	5	YMCAようちえん	80名		
	14	高良学童クラブ	11名	1	24 光の子保育園	18名		
	15	垣花学童クラブ	5名	2	20 安謝保育園	21名		
	20	長田保育園	55名	3	25 柿の実保育園	17名		
	20	兼城教育センター	78名					
	21	海星学園学童	21名					
	22	泊学童クラブ	13名					
	22	星の子保育園	5名					
	27	長田保育園学童保育所	11名					
9	20	第二エミール保育園	38名					
11	6	城西幼稚園	75名					

III 調査研究等の活動

1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、教育活動という4つの大きな柱によって構成されている。これらの各機能は互いに相関性をもって存在するものである。

当館における従来の調査研究には、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を定めて調査研究に取り組む共同研究と、学芸員各自が自分の専門分野について個々に調査研究する個別研究がある。

共同研究は、平成5年度から始まった久米島の総合調査が平成6年度に終了し、その成果を平成7年3月『久米島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築－』として刊行したところである。その後、平成7年度の1年間の空白をおいて、平成8年度からは波照間島の総合調査が2ヵ年間の計画で始まった。この総合調査は、平成9年度までの継続事業であり、平成10年3月にはその成果を報告書として刊行する予定になっている。

個別研究については前述したように専門分野の研究を各学芸員が個々に行うものであるが、従来のとおり今年度もまた、各学芸員によって多様な研究が行われた。これらの研究成果については、研究紀要に毎年掲載しているところであるが、平成8年度に研究・執筆された論文については、『沖縄県立博物館紀要』第23号に個人論文・報告の形で発表されている。

しかし、『紀要』に発表された成果についてはその一部であり、その多くは、各学芸員の専門分野の学会誌や機関紙などに個人研究の形で発表がなされている。

以下、各学芸員が平成8年度に行った活動状況を1調査研究活動、2講演、3著作論文等の順で報告することにする。

2 調査研究

當眞 嗣一（主幹兼学芸課長）

- 奈良国立文化財研究所で鉄器の保存
処理についての調査

期 間：1996年6月11日～13日

- 久米島宇江城城跡の調査

期 間：1996年8月8日～9日

- フルスト原遺跡及び八重山の城調査

期 間：1996年9月4日～5日

- 戦争遺跡の調査

期 間：1996年11月13日～16日

依頼機関：国立歴史民俗博物館

前田 真之（教育普及課長）

- 波照間島総合調査

期 間：1996年8月24日～27日

成 果：波照間島の歴史や民俗に関する
資料の収集を行う。

神谷 厚昭（指導主事）

- 平成8年度沖縄県地質鉱物緊急実態調査
(沖縄本島・周辺離島)

期 間：1996年11月21日～

1997年3月31日

依頼機関：沖縄県教育委員会

- 西表島における地質鉱物などの緊急実態
調査

期 間：1997年1月8日～10日

依頼機関：沖縄県教育委員会

- 特別展「大久米島展」準備調査

期 間：1996年6月26、27日

- 波照間総合調査
○教育普及書作成調査（奄美大島）
期 間：1997年2月6、8日
- 南風原町史自然編集
期 間：1996年4月1日～
1997年3月31日
- 与那城義春（指導主事）**
- 平成8年度 環境庁委託調査・生物多様性
地域調査（やんばる地域）
期 間：1996年6月24日～
1997年3月31日
依頼機関：（財）自然環境研究センター
- 沖縄県自然保護課委託調査「沖縄県版
レッドデータブック区分未決定種等調査」
期 間：1996年10月9日～
1997年3月31日
依頼機関：（株）環境アセスメントセンター
- 沖縄県自然保護課委託調査
「特殊鳥類等生息環境調査」
期 間：1996年10月28日～
1997年3月31日
依頼機関：（株）環境アセスメントセンター
- 「ノグチゲラ調査・研究検討会」委員
期 間：1996年12月17日～
1997年3月31日
依頼機関：沖縄総合事務局北部ダム事務所
- 嵩原 建二（指導主事）**
- 名護市動植物総合調査
期 間：1996年3月～1997年3月31日
依頼調査機関：名護市教育委員会
調査地：名護市一円
- 名護市文化財保護調査
期 間：1996年4月1日～
1997年3月31日
依頼調査機関：名護市教育委員会
調査地：名護市一円
- 沖縄県環境保健部自然保護課委託調査
「特殊鳥類等生息環境調査」
期 間：1996年6月1日～
1997年3月31日
依頼機関：（株）環境アセスメントセンター
- 期 間：1996年8月22日～25日
調査地：沖縄島周辺離島
(久米島・伊平屋島・大東諸島)
- 環境庁委託生物多様性地域調査
期 間：1996年7月10日～
1997年3月31日
依頼機関：（財）自然環境研究センター
場所：沖縄島（やんばる地区）
- 「ノグチゲラ調査・研究検討会委員」
期 間：1996年12月17日～
1997年3月31日
依頼機関：沖縄総合事務局北部ダム事務所
- 萩尾 俊章（学芸員）**
- 沖縄県立博物館50年史関連調査
期 間：1996年4月1日～12月6日
依頼機関：沖縄県立博物館
成 果：『沖縄県立博物館50年史』とし
てまとめる
- 東御廻り等関連拝所総合調査
期 間：1996年12月2日～
1997年3月31日
依頼機関：沖縄県教育厅文化課
成 果：平成8年度に報告書にまとめる
- 波照間総合調査
期 間：1996年8月24日～28日
波照間島調査
依頼機関：沖縄県立博物館
成 果：平成9年度に報告書としてまと
める
- 「久米島における東アジア諸文化の媒介
事象に関する研究」
調査期間：1996年8月8日～9日
久米島調査
事業内容：文部省科学研究費補助金／基盤
(A)・研究協力者
成 果：平成10年度に報告書としてまと
める
- 重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」
期 間：1996年4月1日～
1997年3月31日
事業内容：文部省科学研究費補助金・研究
協力者

成 果：平成9年度に報告書としてまとめる

○東京国立博物館所蔵琉球関係資料調査

期 間：1997年3月20日～22日

依頼機関：東京国立博物館

期 間：1996年8月26日～28日

依頼機関：沖縄県立博物館

○視覚障害者に対する博物館及び美術館の対応

期 間：1996年11月20日～21日

依頼機関：沖縄県立博物館

與那嶺一子（学芸員）

○県内染織所在調査

期 間：1996年9月24日～30日

依頼機関：沖縄県教育委員会

○東京国立博物館所蔵琉球関係資料調査

期 間：1997年3月23日～26日

依頼機関：東京国立博物館

上原 久（学芸員補）

○教育普及事業現地調査

（久米島の鉄器調査）

期 間：1996年7月5日～6日

依頼機関：沖縄県立博物館

○教育普及事業現地調査

（宮古島の鉄器調査）

期 間：1997年1月13日～15日

依頼機関：沖縄県立博物館

○教育普及事業現地調査

（奄美大島・徳之島の鉄器調査）

期 間：1997年2月4日～8日

依頼機関：沖縄県立博物館

太田 健一（指導主事）

○波照間総合調査

期 間：1996年8月24日～28日

依頼機関：沖縄県立博物館

仲底 善章（指導主事）

○波照間総合調査

3 講 演

當眞 嗣一

○「グスクについて」

期 日：1996年6月27日

依頼機関：沖縄市中央公民館

○「琉球の歴史－先史時代－」

期 日：1996年7月4日

依頼機関：島尻教育事務所

○「琉球の歴史－グスク時代を中心に－」

期 日：1996年7月11日

依頼機関：沖縄市中央公民館

○「琉球の歴史－グスク時代－」

期 日：1996年7月18日

依頼機関：島尻教育事務所

○「勝連城と中城城」

期 日：1996年7月25日

依頼機関：沖縄市中央公民館

○「南部のグスクめぐり」

期 日：1996年8月23日

依頼機関：沖縄県教職員組合島尻支部

○「グスクと琉球の歴史」

期 日：1996年8月31日

依頼機関：那覇市歯科医師グループ

○「グスクめぐり」

期 日：1996年9月19日

依頼機関：島尻教育事務所

○「グスクめぐり」

期 日：1996年10月13日

依頼機関：西原町教育委員会

○「糸満市のグスクとその活用」

期 日：1996年10月17日

依頼機関：糸満市教育委員会

○「グスクと琉球王国の誕生」

期 日：1996年10月18日

依頼機関：宜野湾市教育委員会

- 「南部グスクめぐり」
期　　日：1996年10月27日
依頼機関：沖縄県立博物館友の会
- 「グスクの話」
期　　日：1996年11月1日
依頼機関：宜野湾市中央公民館

前田 真之

- 「発見に向かわせる解説」
期　　日：1996年9月11日
依頼機関：沖縄県教育庁生涯学習振興課
- 「歴史認識と学習活動」
期　　日：1996年12月14日
依頼機関：琉球大学史学会
- 「沖縄のシーサーについて」
期　　日：1996年10月9日
依頼機関：琉球大学附属小学校
- 「漆喰でシーサーをつくろう」
期　　日：1996年12月21日
依頼機関：琉球大学附属小学校
- 「博物館資料の見方」
期　　日：1996年12月26日
依頼機関：島尻教育事務所
- 「外国の博物館事情」
期　　日：1997年1月9日
依頼機関：島尻教育事務所

神谷 厚昭

- 移動博物館「自然観察会」（久米島）
期　　日：1996年9月22日
- 「地学教材について」
那覇支部教研地学分科会
期　　日：1996年10月16日
- 「博物館の石材」
那覇支部教研地学分科会
期　　日：1996年11月8日
- 文化講座「星座観察会」
期　　日：1996年11月9日

与那城義春

- 自然観察会　講師
期　　日：1996年6月30日
依頼機関：東村立幼・小・中学校

- 平成8年度 第1回教職5年経験者研修会
講師
期　　日：1996年8月2日
依頼機関：沖縄県立教育センター
- 長寿学級　野鳥講座講師
期　　日：1996年9月10日
依頼機関：浦添市てだこ学園
- 家庭教育学級・野鳥観察講師
期　　日：1996年11月10日
依頼機関：西原町教育委員会
- 野鳥観察会　講師
期　　日：1996年12月5日
依頼機関：県教育庁島尻教育委員会
- 環境教育・自然観察会講師
期　　日：1996年12月6日～9日
依頼機関：南大東教育委員会
- 長寿学園・野鳥観察講師
期　　日：1996年12月17日
依頼機関：県教育庁那覇教育委員会

嵩原 建二

- バードヴィーク野鳥講演会講師
期　　日：1996年5月12日
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課
場　　所：与那城村立宮城小学校
- 自然観察会講師
期　　日：1996年5月25、26日
依頼機関：沖縄県立石川少年自然の家
場　　所：沖縄県立石川少年自然の家
- 山の観察会講師
期　　日：1996年7月14日
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課
場　　所：石川少年自然の家
- 平成8年度少年教室探鳥会講師
期　　日：1996年9月7、8日
依頼機関：那覇市立久茂地公民館
場　　所：県立名護青年の家
- 北谷町高齢者学級講師
期　　日：1996年10月17日
依頼機関：北谷町中央公民館
場　　所：北谷町中央公民館・沖縄市
- 沖縄県長寿学園講師
期　　日：1996年10月22日、11月3日、

- 11月10日
 依頼機関：沖縄県生涯学習振興課
 場 所：駐労センター
 ○平成8年度成人学級自然観察会講師
 期 日：1996年11月15日・11月22日
 依頼機関：那覇市立久茂地公民館
 場 所：末吉公園
 ○長寿学園おきなわ「島尻学園」講師
 期 日：1996年11月28日、12月5日
 依頼機関：沖縄県教育庁島尻教育事務所
 場 所：島尻教育事務所
 ○親子野鳥観察会講師
 期 日：1996年12月7日～9日
 依頼機関：南大東村教育委員会
 場 所：南大東島
 ○長寿学園おきなわ那覇地区講師
 期 日：1996年12月10日、17日
 依頼機関：沖縄県教育庁那覇教育事務所
 場 所：那覇教育事務所
 ○第19回沖縄県青少年科学作品展審査員
 期 日：1997年1月23日
 依頼機関：沖縄県教育委員会
 高等学校教育課
 場 所：沖縄電力
 ○野鳥観察会講師（環境教育モデル校）
 期 日：1997年1月16、17日
 依頼機関：沖縄県自然保護課
 場 所：具志川村立大岳小学校
 ○「自然と親しむ少年のつどい」探鳥会講師
 期 日：1997年2月23日
 依頼機関：玉城少年自然の家
 場 所：玉城少年自然の家
- 期 日：1996年8月2日
 依頼機関：沖縄県教育センター
 （教職5年研修）
 ○研究発表「博物館収蔵資料のデータベース化の諸問題について」
 期 日：1996年8月29日
 依頼機関：重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」文部省科学研究費事業
 ○「江戸上り史跡探索と天女・羽衣まつりの旅」講師
 期 日：1996年10月11日（金）～
 14日（月）
 依頼機関：沖縄県立博物館友の会
 ○「首里南部の史跡めぐり－真珠道廻り－」
 講師
 期 日：1996年11月17日
 依頼機関：私立保育連盟中部南ブロック
 （職員研修）
 ○「首里城めぐり」講師
 期 日：1996年11月21日
 依頼機関：愛和保育園
 ○「歴史の道を歩く－真珠道廻り－」講師
 期 日：1997年1月18日
 依頼機関：沖縄県立博物館（文化講座）
 ○講演「沖縄の歴史と文化」
 期 日：1997年2月4日
 依頼機関：愛媛県県民福祉部同和課

與那嶺一子

- 講演「琉球の服装史について」
 期 日：1996年8月21日
 依頼機関：教育ボランティア養成講座
 ○講演「収蔵品解説会－紅型－」
 期 日：1997年3月15日
 依頼機関：沖縄県立博物館

太田 健一

- 「沖縄の祭祀とノロ」
 期 日：1996年8月7日
 依頼機関：生涯学習振興課
 備 考：教育ボランティア養成講座
 ○「収蔵資料解説会」－厨子甕を中心－
 期 日：1997年2月15日

萩尾 俊章

- 講演「歴史の中の子どもたち」
 期 日：1996年5月20日
 依頼機関：沖縄女子短期大学
 （山里米子研究室）
 ○講演「沖縄の歴史と文化」
 期 日：1996年7月5日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
 （第15回技能労務職員研修）
 ○講演「大交易時代の琉球と久米島」

依頼機関：沖縄県立博物館
備 考：第268回沖縄県立博物館文化講
座

仲底 善章
○講演「博物館における学習」
期 日：1996年8月2日
依頼機関：沖縄県教育センター
(教職5年研修)

4 著作論文

當間 一郎（館長）

- 組踊「探義伝敵打」の内容と価値 『沖縄藝能史研究会会報第225号』 1995年5月
- 組踊地謡の歴史－島袋正雄の舞台－ 『妙音の心理』所収 1996年11月
- 親泊興照の女方について－打ち組み踊り、組踊、歌劇を中心に－
『沖縄藝能史研究会会報第231号』 1996年12月
- 組踊の「村踊り」への伝播と定着 『古典と民俗学論集－櫻井満先生追悼』 1997年2月
- 組踊地謡にみる宮城文 『宮城 文顕彰公演』所収 1997年3月
- 資料紹介 組踊「聟取敵打」について 『沖縄県立博物館紀要23号』 1997年3月
- 琉球王国と宫廷舞踊 NHK『日本の伝統芸能』 1997年4月

當眞 翳一

- 「遺跡から見た久米島」 『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』図録 1996年7月
- 「首里城と今帰仁城」 『考古学による日本歴史5－政治－』雄山閣 1996年11月
- 「沖縄貝塚文化」他10項目 『新版 日本史辞典』角川書店 1996年11月
- 「戦跡考古学」他20項目 『西原町史第5巻・西原の考古』西原町役場 1996年
- 「激動の歴史を歩んだ琉球王国のシンボル」立体復元 『日本の歴史・下』新人物往来社
1997年3月
- 「いわゆる『土より成るグスク』について」 『博物館紀要第23号』沖縄県立博物館
1997年3月
- 「具志頭城北東崖下洞穴内で発見された明刀銭について」 『博物館紀要第23号』
沖縄県立博物館 1997年3月
- 「鉄器文化と沖縄の歴史」 『考古資料より見た沖縄の鉄器文化』沖縄県立博物館
1997年3月
- 「沖縄の鉄器」 『考古資料より見た沖縄の鉄器文化』沖縄県立博物館 1997年3月

前田 真之

- 「発見に向かわせる学習活動：博物館資料からの展開」 『沖縄県立博物館紀要23号』
1997年3月

神谷 厚昭

- 「久米島の生い立ち」 『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』図録 県立博物館
1996年7月
- 「沖縄県南風原町黄金森の乱堆積層中の化石群集」 『県立博物館紀要』 1997年3月
- 大宜味村の自然普及版『おおぎみの自然』（共著） 大宜味村教育委員会 1997年3月

- 「地層を調べよう」、「玉泉洞の観察」『環境教育・理科における環境教育に関する授業展開事例集（小学校編）』沖縄県立教育センター 1997年3月

嵩原 建二

- 「久米島の鳥類」『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』図録 沖縄県立博物館 1996年7月
- 「沖縄島南部の市街地で繁殖する鳥類」（共著）『沖縄県博物館紀要第23号』 1997年3月31日
- 『名護の自然』（共著）名護市教育委員会 1997年3月31日
- 『おおぎみの自然』（共著）大宜味村教育委員会 1997年3月31日
- 『伊江島の鳥類』伊江村教育委員会 1997年3月31日
- 平成8年度特殊鳥類等生息環境調査報告書IX
「沖縄島周辺（久米島・伊平屋島・大東諸島）の主要な干潟及び湿地とその周辺地域における鳥類について」（共著）沖縄県自然保護課 1997年3月31日

萩尾 俊章

- 「君南風」『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』図録 1996年7月
- 「結びとワラサン（算算）」『企画展 ワラサン展』図録 1996年10月
- 「北中城村の巡拝習俗」「西原町大屋門中の巡拝習俗」「東御廻り等関連拝所 総合調査（II）』沖縄県教育委員会 1997年3月
- 「古都 首里」歴史読本『全国城下町絵図（別冊歴史読本）』新人物往来社 1997年3月
- 佐々木利和・与那嶺一子共著「農商務省より独逸宛沖縄関係物品目録（下）」『沖縄県立博物館紀要第23号』 1997年3月
- 多良間利絵子共著「沖縄県立博物館草創期に関するノート」『沖縄県立博物館紀要第23号』 1997年3月
- 「石敢当」他5項目『日本民俗大辞典』吉川弘文館 1997年予定

與那嶺 一子（学芸員）

- 「久米島と紬」『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』1996年7月
- 「紅型について」（共著）『沖縄の染織（1）』沖縄県教育委員会 1997年3月
- 「知念・城間・澤嶠について」『沖縄の染織（2）』沖縄県教育委員会 1997年3月
- 佐々木利和・萩尾俊章共著「農商務省より独逸宛沖縄関係物品目録（下）」『沖縄県立博物館紀要第23号』 1997年3月

上原 久

- 「博物館文化講座」『沖縄県立博物館50年史』沖縄県立博物館 1996年12月
- 「夏休み「歩く・見る・作る」教室」『沖縄県立博物館50年史』沖縄県立博物館 1996年12月
- 教育普及書『考古資料より見た沖縄の鉄器文化』（共著）沖縄県立博物館 1997年3月

太田 健一

- 「オモロと久米島」『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』図録 1996年7月
- 「久米島の新しい産業」『特別展 大久米島展～しぜん・ひと・もの～』図録 1996年7月
- 『企画展 ワラサン展』図録（共著）1996年10月

5 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法 第4条4）こととなっていて、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員研修が今年度も実施された。

平成8年度は、文部省が主催する博物館職員研修をはじめとして、文化庁主催の歴史民俗資料館等専門職員研修会などに参加し、専門的な知識と技能の取得に努めた。

平成7・8年度歴史民俗資料館等専門職員研修会(平成8年度分)に参加して 学芸課 太田 健一

私は、文化庁・国立歴史民俗博物館主催の同研修会（平成8年度分）を前年度に引き続き参加了。期間は11月25日（月）から11月29日（金）の5日間で、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館（以下、歴博と略す）を会場に実施された。その概要について報告する。

研修内容は、平成7年度が文化財保護の現状と課題を中心とするものであったのに対し、今回は文化財（自然史資料を除く）の調査・収集・整理の方法等の実践面に重点をおいた研修であった。ここに細かい内容をあげると、展示概論2、有形文化財の調査・収集・整理の方法（美術工芸・民俗・歴史・考古の4分野）、視聴覚資料の収集と活用、歴博展示見学、コンピューターの活用、保存科学概論、千葉「房総のむら」施設見学、収集資料のデータ化と管理、収集資料の保存環境、懇親会、資料の修理、課題討論である。

特に、千葉「房総のむら」施設見学と課題討論は印象深かった。施設見学は体験型展示中心の「房総のむら」とあって楽しみにしていたもので、研修3日目に行われた。そこには、江戸時代後期から明治時代初期の農家や商家、武家屋敷をその情景も含めて再現されている。そして、生活用具等を収集整備し、伝統的生活様式・生活技術を実物や実演で再現している。また、来館者が当時の生活技術、習慣、儀礼等を直接体験をとおして学ぶことができ、伝統継承の場としての役割も果たしている。実演や体験の項目は「演目」と呼ばれ、米作りをはじめ多種多様なものが1年中行われている。この施設見学を通して、体験型展示とはどういうものかを知ることができた。課題討論は、研修参加者を3つのグループに分けて行われた。課題は前回研修で各歴史民俗資料館等のかかえている最多の問題で、「生涯学習と学校教育」（1グループ）と「博物館資料について」（2グループ）が選ばれた。私は後者の討論会に参加した。討論内容は、資料の収集・収蔵スペースの問題、近現代資料の取り扱い方、資料のコンピューター情報処理、他館との連携についてであった。近現代資料とは戦後の電気製品等の大量生産品のこと、収集と選別の方法等取り扱いの難しいものである。沖縄県立博物館でも、近現代資料の寄贈がある度に自然史・歴史・民俗分野のどこで受け入れるのか議論している。

平成7・8年度の2年間にわたる合計10日間の研修は、博物館職員として経験の浅い私には有意義なものであり、この機会を与えてくださいました関係者に感謝申し上げます。今後も研修会等に積極的に参加し学芸員としての資質向上をはかっていきたいと思う。

IV 展示活動

1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、教育活動という4つの大きな柱によって構成されている。展示活動については、学芸業務の所掌事務として学芸課がその任にあたり、常設展を基本にして特別展を年に1回から2回、企画展を2回から3回程度実施しているところである。

特別展と企画展の実施にあたっては、特別展示室と企画展示室が確保されていないため常設展示のある第1室や企画展示室の大嶺コレクションを撤収したあとに、特別展と企画展を実施しているのが現状である。そのため、本土からの観光客で常設展を見に来られた入館者にとっては、常設展のメインテーマである「沖縄の歴史と文化」の展示が観覧できないということで苦情を受けることもある。したがって、特別展示室や企画展示室を設置することは急務の課題になっている。

平成8年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展を中心に、特別展1本、企画展2本の展示活動を実施した。

以下、展示活動について具体的に述べることにする。

2 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候のなかにある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域としてわが国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って海洋国家として興隆したという歴史的経緯を有している。

本博物館はこうした特性のある歴史と文化に関する資料を収集して整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。よくいわれることだが、沖縄の素顔はいくつかの特徴をもっているとされる。常設展示のメインテーマは「沖縄の歴史と文化」であるが、この常設展示を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されているのが展示内容の大きな特徴になっている。

展示室は、1階の第1室と第2室、2階の企画展示室と第3室、さらに中3階の第4室がある。

第1室が考古・歴史で、ここでは琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。たとえば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異なる宮古・八重山先史時代の姿など。12世紀から13世紀になると按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まる。ここまでが、考古展示となっており、このコーナーには、沖縄のロゼッタストーンと呼ばれ今話題になっている「線刻された石板片」も展示されている。

ところで、15世紀前半には沖縄島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の進攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでの沖縄歴史のユニークな諸相が展開されている。

第2室の自然史の展示は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれるアンモナイトやハロビア、あるいは絶滅して今では見られないリュウキュウジカやリュウキュウムカシキョンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。時計まわりに見ていくと、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林に住む生きもの、源流の生きものと続き、また、沖縄のハブについても分類して展示してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島や国・県指定の天然記念物については特設コーナーを設けて展示してある。

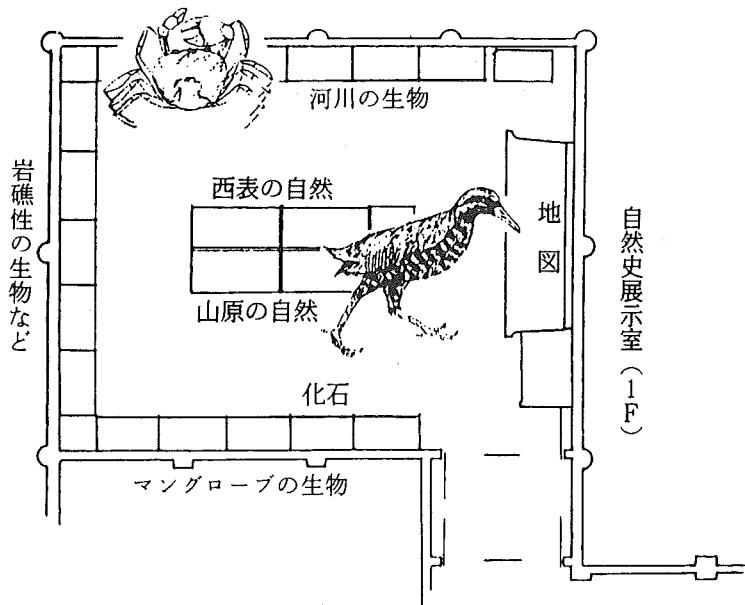
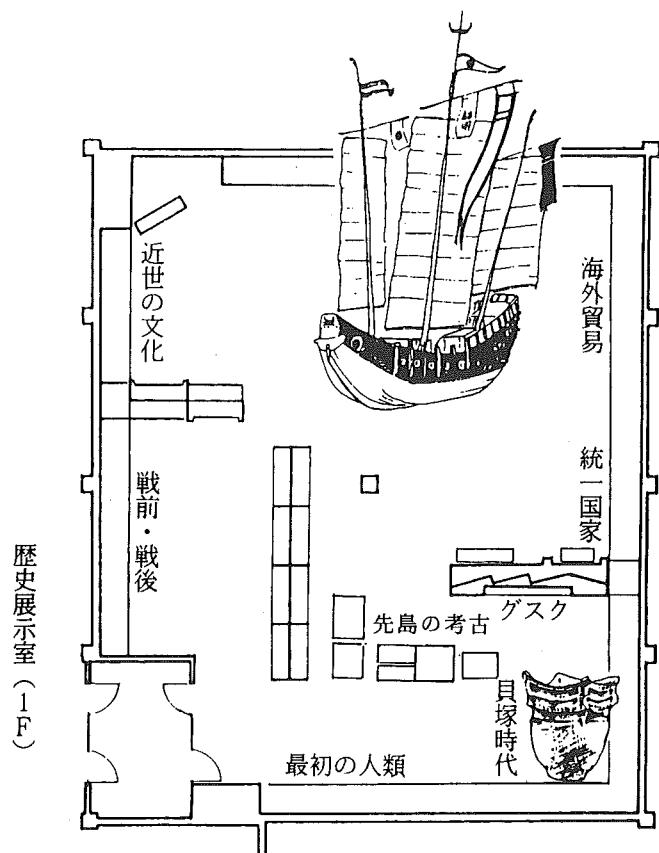
自然室を出て左へ折れると2階にいたるスロープがあり、そのスロープを戦前から戦後にかけての風景写真パネルに導かれて上って行くと企画展示室となる。この展示室には「大嶺コレクション」が展示されているが、その一角を利用して沖縄の染織のルーツともいわれる「東南アジアの染織」も展示してある。毎年1回行われる新収蔵品展などは主にこの展示室を使って行われている。

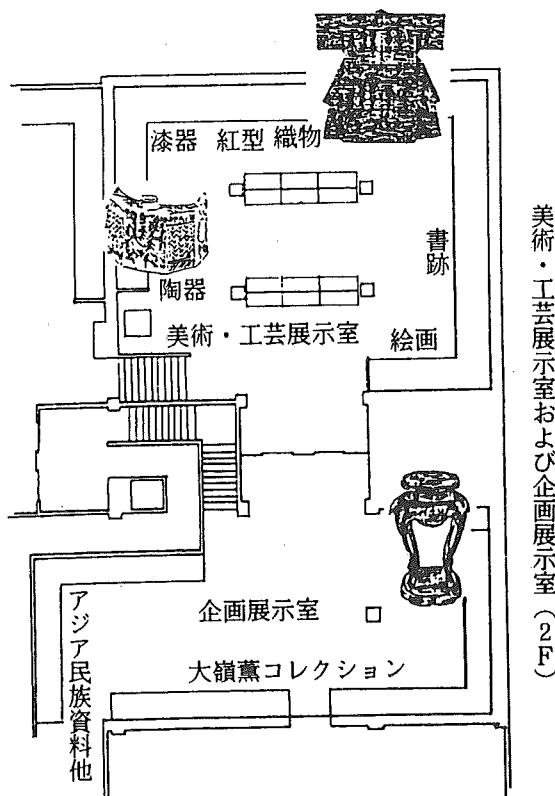
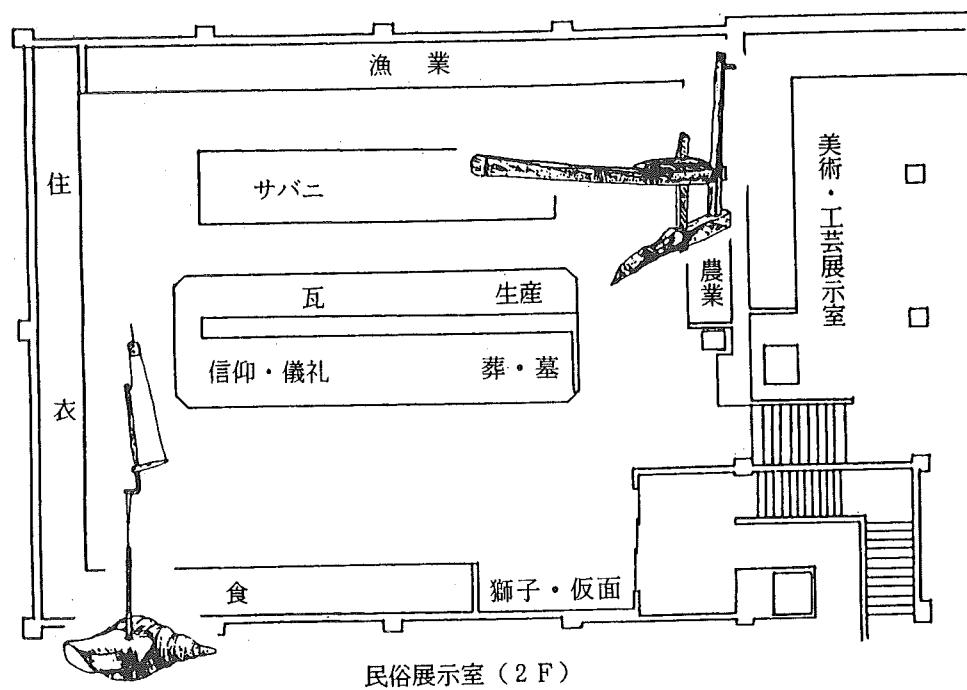
第3室美術工芸の展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交渉を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第4室民俗の展示室には、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・芸能など、テーマごとに整理・分類して展示してある。また、庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知る資料も展示してある。なかでも、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などが紹介展示されているのはこの室の特徴点の一つになっている。

その他、野外展示やロビー展示もある。

当博物館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特的な工法で築かれた石牆は、前方の龍潭や首里城の眺めと調和して往時の古都をしのばせる歴史的景観を呈している。前庭には、旧円覚寺樓鐘（重文）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、芝生の中にひっそりと立っている石灯籠や石敢當とともに石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭などが亜熱帯の樹木や草花に囲まれて屋外展示されている。ロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった正殿大龍柱の頭、万国津梁の鐘（首里城正殿鐘・重文）、「徳高」・「徳聲」などの偏額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。





3 特別展

特別展「久米島展」～しぜん・ひと・もの～ (担当: 津波古聰、嵩原建二、與那嶺一子、太田健一)

会期: 1996(平成8)年7月30日(火)～9月1日(日)

会場: 沖縄県立博物館(ロビー、第1展示室、スロープ、企画展示室、第3展示室)

〔趣旨〕

県立博物館では、県内の各離島を対象とした総合調査を年次計画で進めてきた。平成5～6年度においては久米島(具志川村・仲里村)を総合的に自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各分野から調査し、その成果は『久米島総合調査報告書』にまとめられた。

久米島は、霧島火山帯に属する独特の自然風土に恵まれた島である。歴史的には海外交流の要として重要な役割を果たし、島内には、先史時代から琉球王府時代の文化遺産が戦災をまぬがれて数多く現存している。このように久米島の独自の風土に根ざした多彩な文化は、沖縄の歴史と文化の全体像を理解するうえで重要な鍵をなすものと思われるが、これまで一般県民に広く紹介する機会が少なかった。

今回、県立博物館では総合調査で得られた最新の情報と資料群を総合した特別展を企画し、久米島の両村はじめ関係各位のご協力を得ながら、自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築・産業等の各分野から光をあてた「久米島」の全体像を概観する特別展を開催する。

〔開催形式〕

沖縄県立博物館が主催し、具志川村・仲里村・久米島博物館建設委員会・沖縄タイムス社が共催し、久米島郷友会連合会が後援にあたり特別展を実施した。

〔展示内容〕

展示の内容については、平成7年度に3回の展示検討委員会を設け検討を重ねた。展示検討委員は上江洲均(名桜大学教授)、当山昌直(沖縄県立図書館)、盛本勲(沖縄県教育庁文化課)の各氏を委嘱した。

展示は次の五つのゾーンに分かれ、未公開の資料を含む実物資料と写真パネル、ジオラマ等により久米島の「しぜん・ひと・もの」を紹介した。

I 「プロローグ」

島の風物と題して地図と写真を組み合わせた組写真パネルを作製し、島の見どころと文化財の分布を紹介した。

II 「久米島の自然」

「島のなりたち」「鳥島の地形・地質」「久米島の生物」「久米島の貴重な生物」「久米島の名勝・天然記念物」「久米島の生物あれこれ」の小テーマから構成。地質模型や写真パネル、岩石標本、剥製、昆虫標本、植物標本等を展示し、久米島の自然の様子を紹介した。また「久米島の生物」では、白瀬川のジオラマを作製した。「島のなりたち」のコーナーでは下地原洞人の人骨が初公開された。

III 「くめのしま」

「遺跡から見た久米島」では出土品やパネルを使って貝塚がらグスクを紹介した。「海外交流の要」では久米島の地理的利便性を考古の出土品や冊封使関係資料を通して説明した。「久米島と王府」ではシマと間切、蔵元と地頭代、上江洲家とお茶等を通して王府との関係を示した。「おもろと久米島」ではおもろから見えてくる久米島を紹介。「こめの島」では土地利用の変遷、稲作のための水路からため池への変化等を写真・図・表等のパネルで解説した。「久米島の風水」では上江洲家の屋敷の配置と構造、墓の形態等を紹介した。「君南風と神女」は君南風関連の遺品を中心にノロとその祭事を写真パネルで示した。「久米島と紬」では久米島の紬織物の発生から貢納布時代をへて現代までの変遷を展示した。

IV 「近代の久米島」

明治から昭和までに起こった主な出来事を齊藤用之助資料、硫黄鳥島関係資料や写真資料を中心紹介。スロープでは久米島の今昔を写真パネルによって紹介した。また「久米島の農業」「久米島の漁業」という小テーマを設け民具等を展示した。

V 「久米島の遺宝」

久米島の旧家、上江洲家、喜久村家、山里家等に伝わる絵画、書跡、染織資料を展示公開した。

なお、『大久米島展～しぜん・ひと・もの～』と題した図録を作成した。

[関連催事]

◎博物館文化講座 「久米島～しぜん・ひと・ものを語る～」

日 時：8月17日（土） 14:30～16:30

講 師：上江洲 均（名桜大学教授）

◎お茶会 *先着100名

日 時：8月17日（土） 13:00～14:30

場 所：県立博物館正面玄関前の中庭

茶 師 範：與座悌子（久米島郷友会）

◎芸能講演会

日 時：8月10日（土） 15:00～16:30

場 所：県立博物館講堂

出演団体：野村流音楽協会波平憲広研究所、野村流伝統音楽協会久米島支部、

仲里村婦人会、具志川村婦人会他多数の皆様

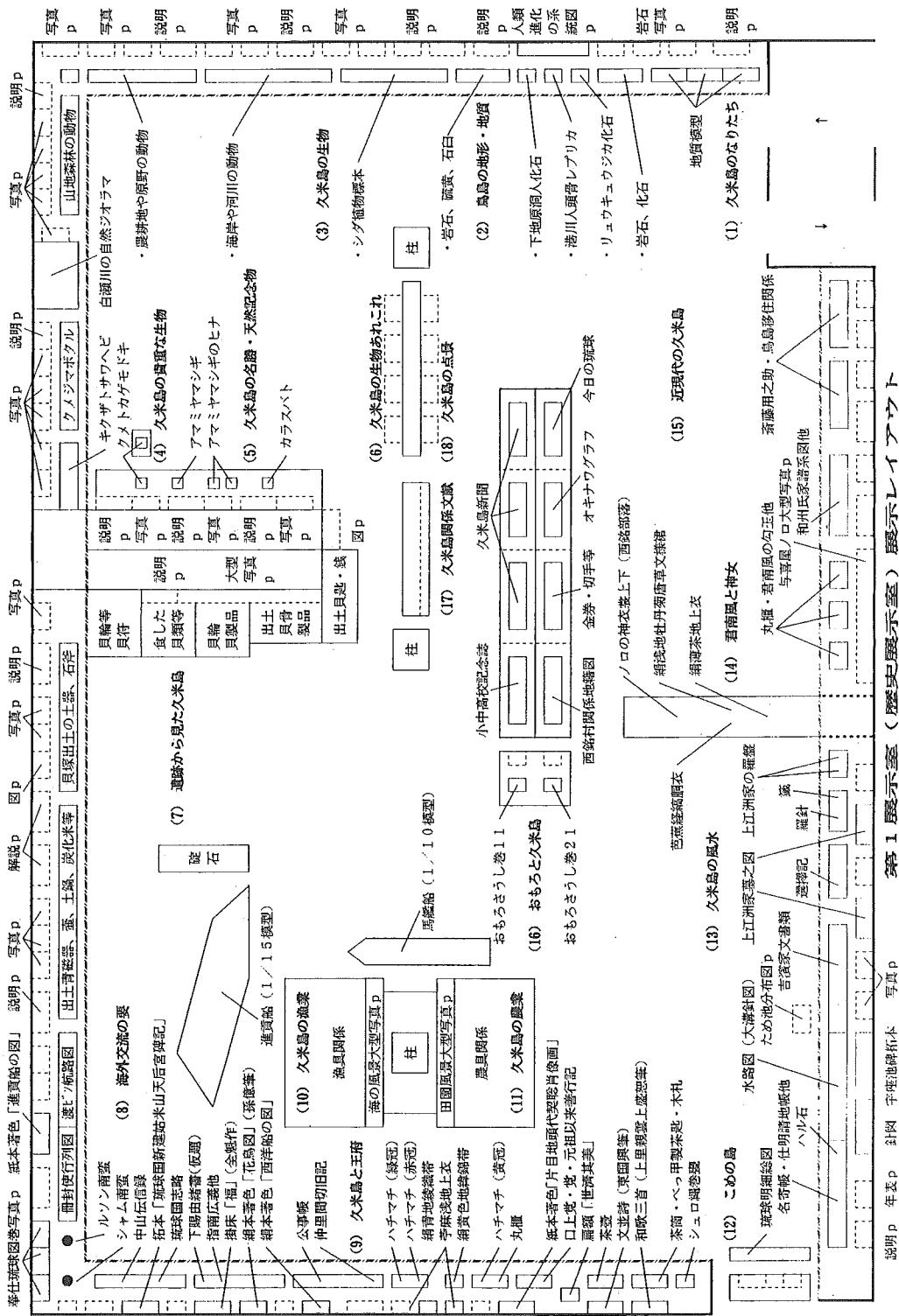
演 目：白瀬走川節、久米はんた前節、中城はんた前節、舞踊・我ったー島節等



オープニング・テープカット

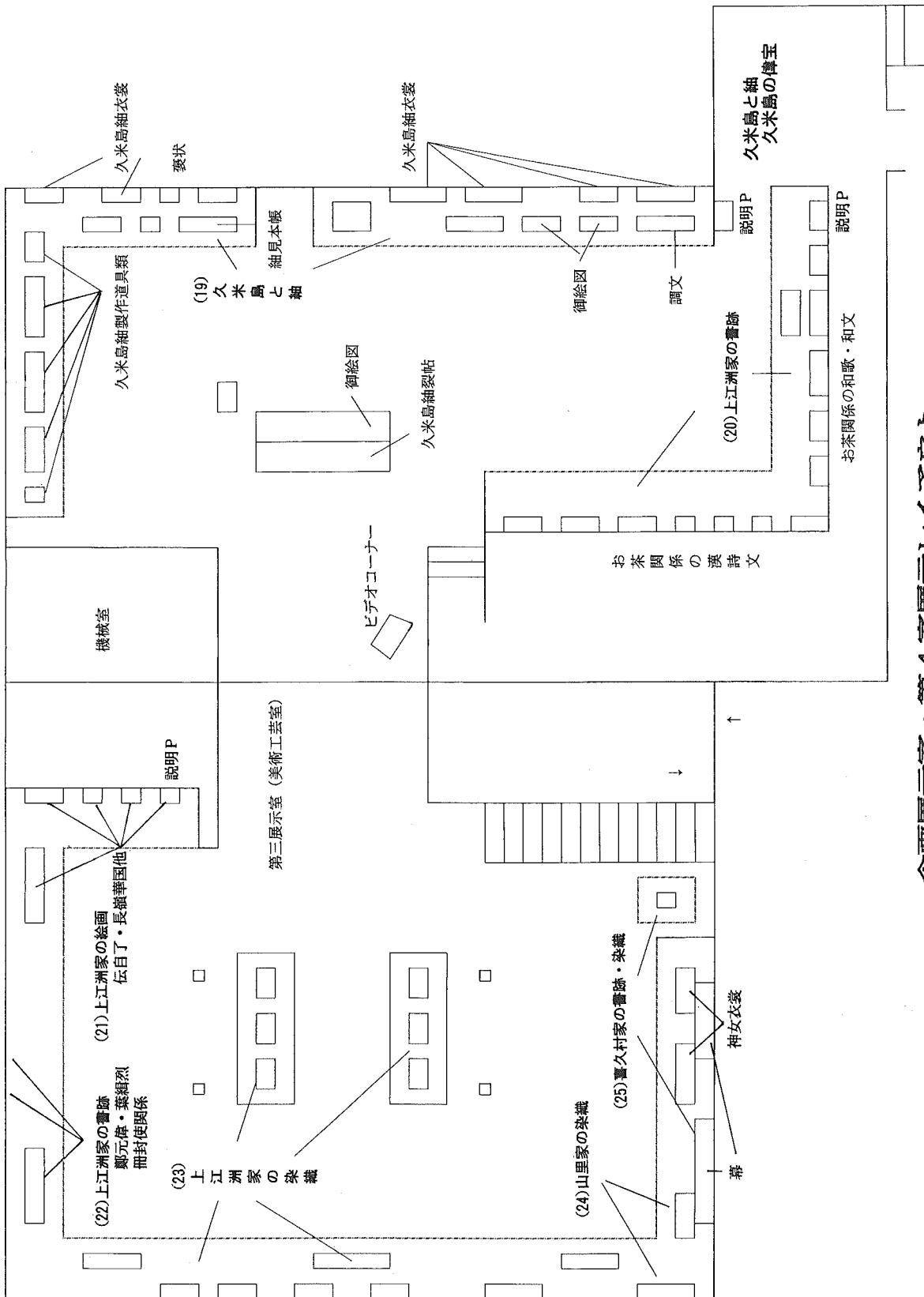


第1展示室展示風景



企画展示室・第4室展示レイアウト

久米島紬製作工程写真パネル



4 企画展

「平成7年度新収蔵品展・ワラザン展」（担当：与那城義春、太田健一）

会期：1996（平成8）年10月22日（火）～11月24日（日）

会場：沖縄県立博物館（美術工芸展示室・企画展示室）

〔開催趣旨〕

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入した資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の博物館活動に役立てることを目的として実施した。

また、今回は「新収蔵品展」とあわせて、栗田文子氏より寄贈された藁算資料コレクションとともに「ワラザン展」も開催した。

沖縄には、琉球王府時代から明治の頃まで使用されていた藁製の記録方法があった。それは藁算と呼ばれ、文字や数字による記録を知らなかった人々が生活の中で生み出したもので、藁の編み目・結び目や長短・高低などの組み合わせで記録・判別してきた結縄法である。そして、現在では我々の前から、姿が消え失せようとしている民具である。

平成7年度に、栗田文子氏（日本民具学会会員）より県立博物館に同氏の調査・復元してきた藁算157点が寄贈された。この機会に、栗田文子氏藁算資料コレクションを県民に広く公開し、藁算という民具を再認識することを目的として「ワラザン展」を開催した。

〔展示内容〕

（美術工芸展示室）：壁ケースに自然史（剥製・化石レプリカ資料）・民俗・歴史・美術工芸資料を展示、中央のエアタイトケースには民俗・美術工芸の衣服資料を展示した。

（企画展示室）：展示コーナーは、①結びの文化、②ワラザンの研究（戦前）、③ワラザンについて④沖縄本島のワラザン、⑤宮古諸島のワラザン、⑥八重山諸島のワラザンの5部門に分けて展示した。

〔展示目録〕

（美術工芸展示室）

寄贈の部：

ヤマネコ類、オオツヤウロコガイ、オナガ、カケス、クイナ、コノハズク、体重計、味噌製造器、水筒、米軍藁きょう、衣装箱、おもちゃの刀、軍払い下げ品利用のルーペ、たばこ（ききょう等）、殺虫剤フマキラー液、やなぎごうり、厨子甕、琉球人形、紙風船、ビー玉、おはじき、ブリキ製おもちゃ、ミニカー、セルロイド人形、ソテツの実玩具（豚）、ホタルかご、シーサーガウガウ、サギディール、海ディール、ワリジケ網、芭蕉絹縞上衣、木綿灰色地緯縞文様上衣、木綿灰色地絹縞に緯絣文様上衣、日本軍の銃剣、徳利・杯、『琉球音楽新刊三味線乃工工四上巻』、尋常小学国史上巻、祖国復帰のねがい、通貨交換申込書、復帰協バッジ、小学地理附図、勲七等瑞宝章、沖縄復帰記念「新沖縄県案内地図」「役場・番所・蔵元服務規定」、『沖縄朝日新聞』、通貨交換証、日章旗、川平朝令氏から高嶺朝教あて書簡、『冬休みの友』、「沖縄郷土史年表」、牛島軍司令官銘入・短刀鞘、紙本著色「山水図」、佐久本興吉書、書跡「風林火山」、苧麻白地絹縞文様のスカート、縮緬黄色地松に柳桜藤と飛燕水辺花鳥文様衣裳、縮緬朱地胴衣と木綿白地力

カン、勤王流女踊之冠他、紺地絣衿着物、シルチョウ、木綿紺地格子縞に経浮花織衿上衣、高麗磁器、中国麻着物、絣着物

移管の部：

漆器（椀）、搔落草花文花瓶、縄巻壺

購入の部：

ヨシゴイ、キョウジョシギ、コノハズク、チョウゲンボウ、ミゾゴイ、バン、ヤンバルクイナ、ハイイロミズナギドリ、アマミヤマシギ（ヒナ）、ズアカアオバト、キジバト、マミチャジナイ（♀）、ノゴマ（♂）、タシギ、ヤシガニ、リュウキュウヨシゴイ（若）、アマサギ、ハシブトガラス、イタチ、コガモ、ハシビロガモ、カルガモ、ミシシッピーアカミミガメ、マングース、オオコノハズク、ウミネコ、ヒメクイナ、セッカ、ウグイス、メジロ、オオフラミンゴ、ミヤコノロジカ骨格レプリカ、那覇地図、浮世絵、兼城昌興「山水図」、絹黄色地縞子地織に刺繡裂、朱漆吉祥沈金飾棚

なお、展示に際しては図録『平成7年度新収蔵品展』を刊行し、その中で主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。同目録は『沖縄県立博物館年報 NO.29』にも掲載されている。

（企画展示室）

ヤーシグワー、アンディル、山原船模型、水引（橘、桐、梶、海老、祝の箸袋、万寿、宝輪）、装飾用ひも結び、正月用飾り結び（日本・中国）、志野袋、女性の結髪、龍文錦織帯、男女の図（比嘉盛清作）、沖縄の風俗（作者不詳）、『沖縄結縄考』、『南嶋探検』『琉球古来の数学と結縄及び記標文字』、『南島覺書』、八重山蔵元絵師画稿集コピー（平民女の図、八重山島土族平民老若男女世俗之図、米穀収納之図、女人公布調・自始至終之畧図、布晒の図）、ワラザン各種

なお、展示に際しては図録『ワラザン展』を刊行し、その中で主な展示物を写真で紹介するとともに栗田文子氏寄贈の藁算資料コレクションの全目録を掲載した。

〔開会式及び感謝状授与式〕

平成8年10月22日（火）午前10:00館長室にて、寄贈者（齋藤用之助他5名）への感謝状授与式をとりおこなった。その後午前10:30に、企画展示室入り口で開会式及びテープカットが行われ、企画展「平成7年度新収蔵品展・ワラザン展」が開会した。

〔関連催し物〕

平成8年10月26日（土）午後2:00～館長室にて、栗田文子氏への感謝状贈呈式をとりおこなった。その後、館長室にて記者会見をおこなった。

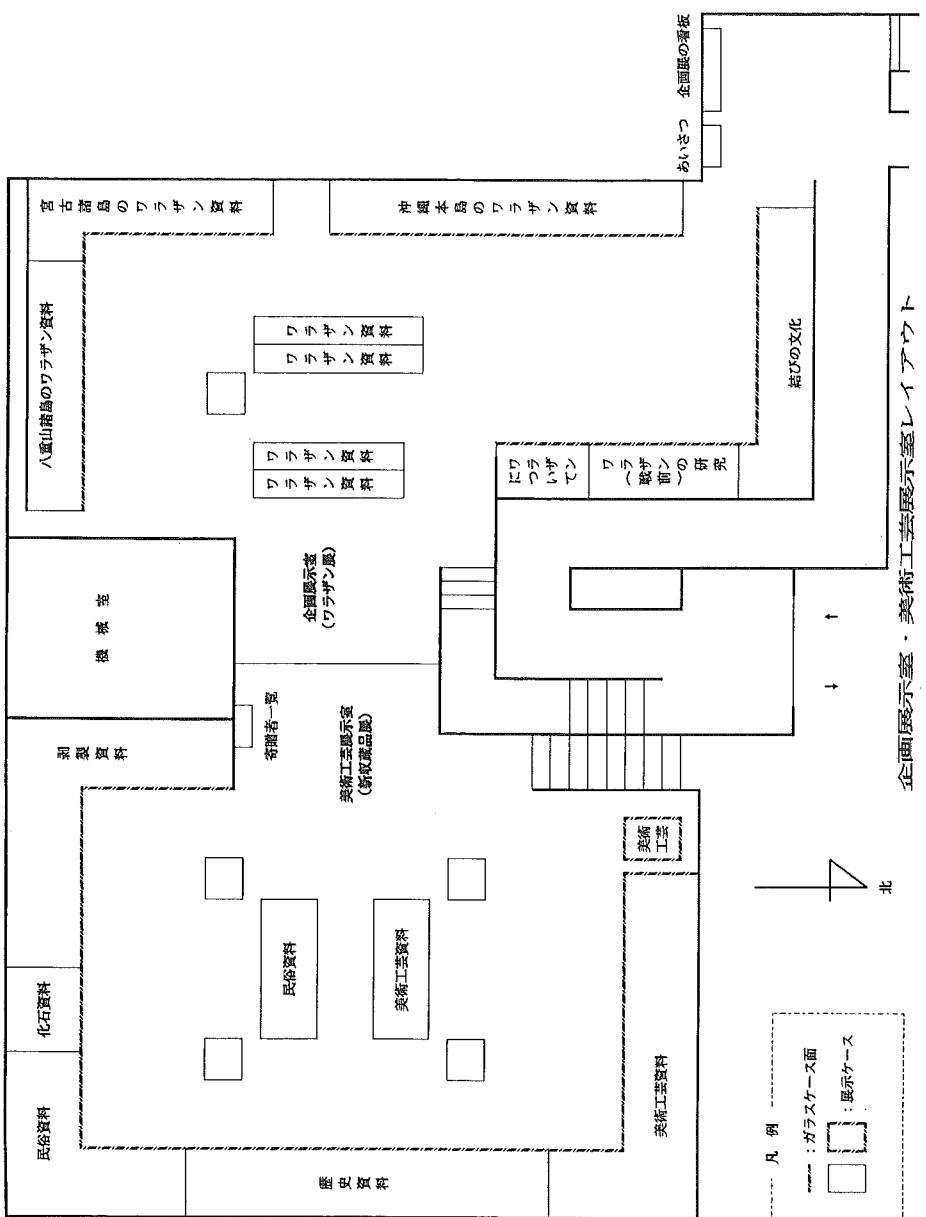
また、文化講座の一環として本展示会にあわせて、特別文化講座を開催した。講師に日本民具学会会員の栗田文子氏をお招きし、結びの研究をとおして沖縄の結縄つまり藁算との出会いと藁算の研究・復元に至った経緯を講演してもらった。

期 日：10月26日（土） 午後2時30分～4時30分

場 所：沖縄県立博物館講堂

演 題：「結びについて～藁算を中心～」

定 員：なし



オープニング・テープカット



ワラサン展の展示解説

沖縄県立博物館50周年事業
企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」（担当：萩尾 俊章）

期 日：1996（平成8）年12月3日（火）～22日（日）

場 所：沖縄県立博物館企画展示室及び美術工芸室

主 催：沖縄県立博物館

〔企画趣旨〕

当館の創立50周年にあたり、記念事業の一環として企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」を開催した。当博物館の歩みは文化財収集の歩みであり、かつ沖縄の戦後史を象徴してもいる当博物館にかかる収蔵資料をはじめとして、現在に至るまでの沖縄県立博物館50年の歩みを伝える写真パネル、文書類、出版物を展示するとともに、施設の変遷、収蔵品の増加と展示室の増設などを関連資料で展示し、社会教育の場として当館が果たしてきた役割を紹介し、博物館活動の意義を広く普及することを目的とした。また、当博物館が所蔵する資料の中から、指定文化財や大型コレクションを中心に名品を展示し、文化財や博物館資料に親しむ機会とした。

〔展示内容〕

〈導入〉

スロープ展示：主な年間ポスター、特別展ポスターを年代順に掲示した。

I 「戦前の博物館」

首里城北殿に開設された沖縄教育会付設「沖縄郷土博物館」にかかる資料を展示し、戦前における博物館の状況を前史として簡単に紹介した。

II 「廃墟の中から」

破壊された首里城、県立一中の校舎残骸、首里教会、護国寺と波上宮、くずれた石垣と焼けた福木など戦争のつめあとが生々しく感じられる写真類、勾欄羽目、扁額残欠、弾痕を残す金工類、石碑の残欠などで戦災を受けた文化財破壊の状況の一部を展示し、こうした廃墟の中からの文化財収集活動を通して、博物館づくりが進められてきたことを明らかにした。

III 「東恩納博物館時代」

1945年8月に米国海軍軍政府によって「沖縄陳列館」が石川市東恩納に設立され、翌年4月民政府に移譲され名称を「東恩納博物館」と改称して活動した時期である。このコーナーでは、当時展示された博物館資料、民家を改造した博物館全景、内部の展示風景などの写真パネルと当時の文書類を展示した。

IV 「首里汀良町時代の博物館」

1946年3月に首里市役所の機構の一部に文化部が設けられ、首里城、円覚寺周辺の焦土の中から一般市民の協力を得て文化財の収集活動を開始し、「首里市立郷土博物館」を開設した。この博物館も翌年12月に民政府に移管され、名称も「沖縄民政府立首里博物館」と改められた。このコーナーでは、「沖縄郷土博物館」の看板をはじめ、当時収集した文化財資料、写真パネルなどで構成した。

V 「首里当蔵町時代の博物館」

1953年5月、新館とペルリ記念館が首里当蔵町の龍潭池畔に新築が落成し、首里と東恩納の両館が合併され博物館の規模も拡大し、内容面でも一層充実した。当蔵には1966年まで所在し、1955年に名称も「沖縄民政府立首里博物館」から「琉球政府立博物館」に改称された。この間に、

施設の狭隘化から、旧尚家跡への移転計画が進められた。展示品としては「琉球政府立博物館」の看板をメイン展示とし、関連資料や写真パネルなどを展示した。

VI 「琉球政府立博物館から沖縄県立博物館へ」

新館が米国政府からの資金援助を受けて1966年10月に現敷地に新築落成した。1972年5月15日、沖縄の日本復帰により「琉球政府立博物館」から「沖縄県立博物館」と改称され、現在に至っている。

ここでは、1968年からは館報が刊行され、また特別展示室を利用して各種の展示会が企画されていく。また、講堂では様々な講演会・公演会、研究発表会が催され、文化活動の場として利用されていた。1970年代後半からは、研究紀要をはじめ、展覧会の各種パンフレット、ポスター、文化講座のレジュメなど、いろいろな資料を通して当館が社会教育面でも大きな役割を果たしつつ幅広い活動を始めてことを展覧した。さらに、1980年代後半からは教育普及活動はさらに充実した内容をもつようになる。活動の一端を示す写真や刊行物などの資料を紹介した。

現博物館の設計にあたっては、紆余曲折があったことから、設計図面など関係資料を通じて紹介する。また、予算や入館者の推移、那覇市天久に建設予定の新館のコンペ建築設計図などを展示して将来に向けて発展する当館の姿を浮彫りにした。

〈美術工芸室〉

当博物館が所蔵する資料の中から、指定文化財や大型コレクションを中心に名品を「収蔵名品百選」と銘打って展示した。

〔総括〕

オープニングは當間一郎館長、新城紀秀博物館協議会会长、池原秀光博物館友の会会長によつてテープカットがおこなわれた。

旧職員や博物館関係者などが多数つめかけ賑わった。とくに「収蔵名品百選」は指定文化財や注目を集めている名品が観覧できるとあって人気があった。

問題点としては博物館刊行の図録や出版物、入館券、写真などに関して一部保存されていないものがあったり、予算の推移をまとめる中で1974~77年の記録がなかったりということがあった。予算記録の空白は外間元館長の手元に控えのコピーがあって、『沖縄県立博物館50年史』のそれも次回には埋めることができとなった。



【主要出品目録】

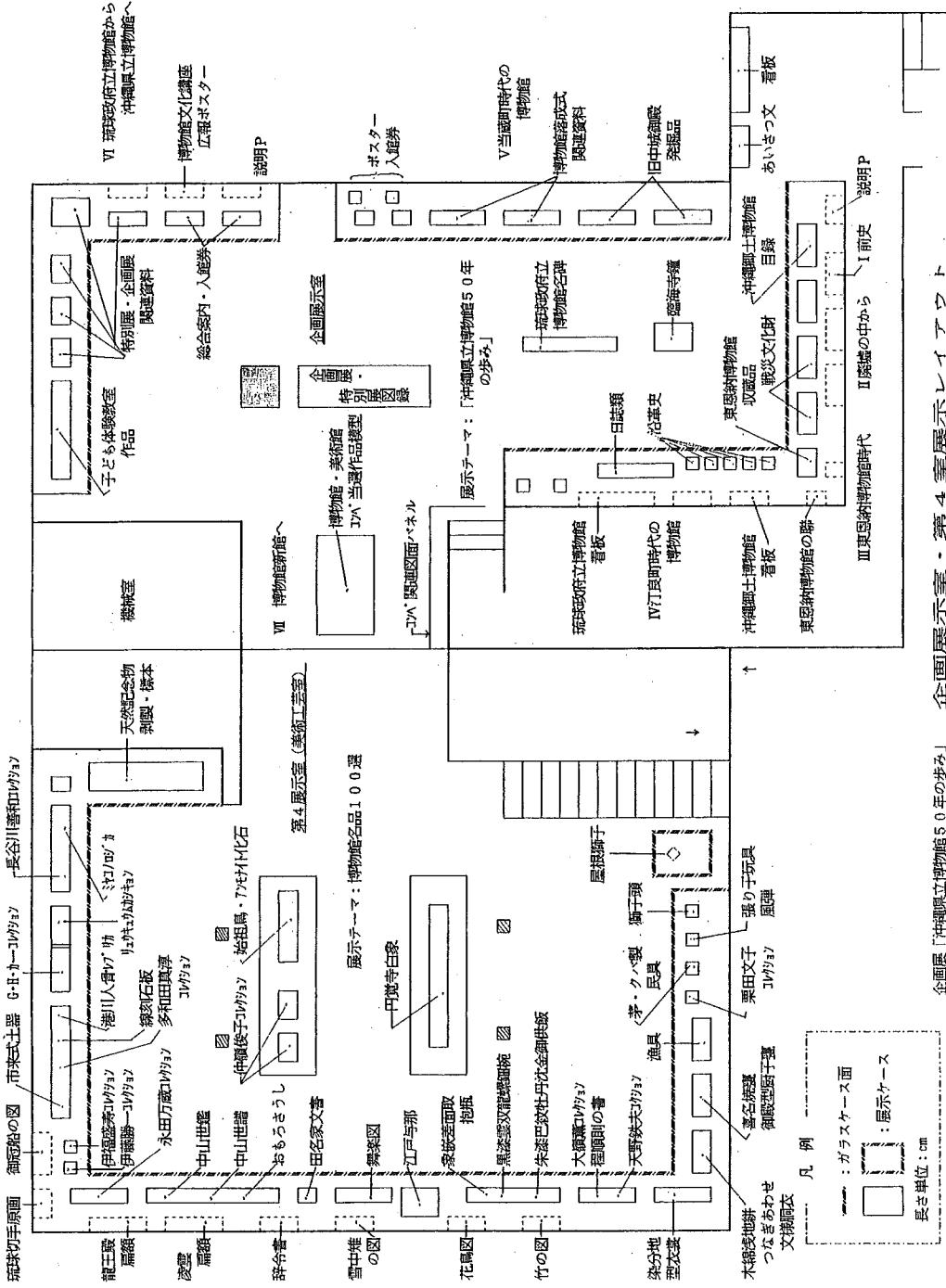
「沖縄県立博物館50年の歩み」－企画展示室－

〈プロローグ〉	備 考
博物館の50年のあゆみ 博物館の変遷	説明パネル 図パネル
I 戦前の博物館	備 考
沖縄郷土博物館 首里城北殿 沖縄郷土博物館目録	説明パネル 写真パネル
II 廃墟の中から	備 考
破壊された首里城（1945年）ほか 「致和」扁額 円覚寺の焼けただれた金工品 円覚寺の透かし彫り残欠 世持橋勾欄羽目残欠 臨海寺梵鐘（1459年作）	写真パネル4点 5点
III 東恩納博物館時代	備 考
建物全景・展示風景 ハンナ少佐・大嶺薰館長 施設略図 当時の展示品—巴紋入嘉瓶ほか 東恩納博物館の聯 海軍政府主催沖縄展示会（英文パンフ）	写真パネル 写真パネル 図パネル 2点対
IV 首里汀良町時代の博物館	備 考
首里博物館の建物・展示風景・豊平良頭館長・原田貞吉館長 施設略図 博物館沿革史（1954年以前） 新聞切抜帳（1950年頃、1951～52年、1953～54年） 沖縄民政府印（1946年） 沖縄郷土史年表 琉球史料 文化編	写真パネル 図パネル 各1冊（計3冊） 1冊
V 首里当蔵町時代の博物館	備 考
博物館の玄関・ペルリ記念館・展示風景 施設略図 山里永吉館長・金城増太郎館長 博物館沿革史 吉里弘氏写真	写真パネル 図パネル 写真パネル

<p>ペルリ記念館祝辞（立法院議長護得久朝章、 琉球上訴裁判所首席判事代理判事松島朝永） 在米文化財の返還－おもろさうし（複製） 新聞切抜（1953年）ほか</p>	2
<p style="text-align: center;">VI 琉球政府立博物館から沖縄県立博物館へ</p> <hr/> <p>琉球政府立博物館</p> <p>英文（1959年 スミソニアン博物館展示解説パンフレット） ハワイビショップ博物館・沖縄古文化紹介展アルバムその他（1961年） 博物館予算表／予算決算に関する書類（1962年度）文教局社会教育 学校団体参観一覧（1962年1月～12月） 観覧者数／参観人員簿（1962、64、66年） 日本博物館協会会員証（1964年） 博物館案内 琉球政府立博物館（1964年） 政府立博物館新館落成記念切手・紹介（1966年）琉球政府立郵政庁 新館落成記念切手（1966年10月6日）発行 新館落成式典における行政主席のあいさつ文（1966年10月6日） 開館式における行政主席のあいさつ文（1966年11月3日） 戦前の旧中城御殿の石垣および正門写真、発掘資料（旧中城御殿） 首里大中町一帯の航空写真、新館の建築工事、新館落成。</p> <p style="text-align: right;">開館記念関係写真</p> <p>琉球政府立博物館名碑 謝花雲石書 新聞切抜帳（落成式、展示会関係記事） 新館落成式典計画書・落成祝賀余興プログラム</p> <hr/> <p>沖縄県立博物館</p>	<p>備考</p> <p>写真パネル、実物 写真パネル</p> <p>1冊</p>
<p>沖縄県立博物館（看板） 館蔵品に関する絵はがきのいろいろ 琉球政府立博物館入館券 博物館案内 琉球政府立博物館監修 琉球政府立博物館あんない（リーフレット） 守礼の光 97号 展示会「日本古美術展」・「50年前の沖縄展」 鄭元偉謹書扁額寄贈記念誌 新館落成記念琉球博物館三十年史 特別展・企画展関係ポスター、チラシ、図録、写真等 博物館文化講座ポスター、博物館年間ポスター 館報・年報、研究紀要類 教育普及関係（刊行物・教育普及書、学習ノートほか、活動関係写真） 施設整備関係写真（2階増築、展示室改装、清掃作業風景ほか）</p> <hr/> <p>博物館新館にむけて</p>	<p>4種類 1冊 写真パネル</p> <p>約45点 20点 50冊 25冊、5点 写真パネル</p>
<p>新館建設の経過 沖縄県立博物館新館基本構想 沖縄県立博物館新館建設基本計画 沖縄県立博物館新館展示基本計画 沖縄県立博物館新館コンペ建築設計図 沖縄県立博物館新館コンペ建築設計模型及び写真 沖縄県立博物館新館建設予定地写真</p>	<p>説明パネル</p> <p>模型、写真パネル 写真パネル</p>

「博物館収蔵品百選」－美術工芸室－

I 国指定・県指定文化財から		III 博物館名品から	
1 おもろさうし 2 混効駿集 3 円覚寺白象 4 世持橋勾欄羽目 5 絹本着色花鳥図（殷元良筆） 6 聞得大君御殿雲龍黄金簪 7 黒漆螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀 8 枝梅竹文赤絵碗 9 象嵌色差面取抱瓶 10 白密陀山水樓閣人物漆絵箔絵角盆 11 三線 江戸与那 12 三線 盛嶋開鑓 13 評定所格護定本 中山世鑑 14 評定所格護定本 中山世譜 15 程順則の書 16 扁額「凌雲」林麟鳴書 17 宮古島下地の首里大屋子への辞令書 18 伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書 19 田名家文書（寄託）		38 イリオモテヤマネコ（文化課寄託） 39 ヤンバルテナガコガネ 40 フタオチョウ 41 アマミヤマシギ 42 ケナガネズミ 43 キクザトサワヘビ 44 カラスバト 45 コノハチョウ 46 港川人復元像 47 港川人頭骨レプリカ 48 伊波貝塚土器 49 貝符 50 パナリ焼 土器 51 外耳土器 52 高麗瓦 53 青磁・青花 54 線刻石板 55 冊封使行列図 56 真壁神社鰐口 57 座樂並踊の図 58 進貢船の図 59 旧首里城の図 60 龍王殿扁額 61 染織・織物 62 琉球切手原画 63 ペリー日本遠征記・挿入画 64 御殿型厨子甕 65 石厨子 66 掘り串 67 サバニ 68 張り子 69 海フゾー 70 ユートゥイ 71 ミーカガン 72 アンダガーミ 73 クバジー 74 クバガサ 75 ティール 76 ガンシナ 77 カヤ容器 78 サギヤイ 79 ホラ貝の湯沸かし 80 シーサー（屋根獅子）	
II 主なコレクションから〈一式〉		III 博物館名品から	
20 G・H・カーコレクション 21 大嶺薰コレクション 22 天野鉄夫コレクション 23 仲嶺俊子貝類コレクション 24 多和田真淳コレクション 25 長谷川善和コレクション 26 伊福盛寿コレクション 27 伊藤勝一コレクション 28 栗田文子コレクション 29 乾純之助コレクション 30 永田万歳コレクション		31 アンモナイト 32 トリロホドンゾウの化石 33 リュウキュウジカの化石 34 リュウキュウムカシキヨン 35 ミヤコノロジカ 36 ヤンバルクイナ 37 ノグチゲラ	
III 博物館名品から			



5 移動博物館

第21回移動博物館

会期：1996（平成8）年9月20日（金）～22日（日）

会場：具志川村農村環境改善センター

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・具志川村・仲里村・具志川村教育委員会・仲里村村教育委員会・

久米島博物館建設委員会

〔趣旨〕

本県はわが国最南端に位置し亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし歴史的に日本本土や中国、東南アジアとの交易を盛んに行った地域であり、琉球王国時代から独自の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の歴史と文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第21回は久米島（具志川村、仲里村）において開催した。

〔内容〕

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈自然観察会〉で構成した。展示は古代の生物・沖縄の天然記念物・久米島の自然と歴史文化の、3つの大きなテーマから構成し展示を行った。また、展示会場にビデオ放映コーナーを設け沖縄の伝統工芸や自然に関するビデオを放映した。さらに、文化講座や自然観察会も合わせて実施した。

〈展示会〉会場：具志川村農村環境改善センター

会期：1996（平成8）年9月20日（金）～22日（日）

対象：小・中・高校生、一般

入場：無料

〈ビデオ放映〉内容：「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラパゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」他

〈文化講座〉演題：「下地原洞人を語る」

講師：佐倉 朔（札幌学院大学教授）

会場：仲里村農村環境改善センター

日時：9月21日（土）午後7時～9時

対象：学生、一般

入場：無料

〈自然観察会〉講師：与那城義春（沖縄県立博物館学芸員）

神谷 厚昭（　　〃　　）

嵩原 建二（　　〃　　）

日時：9月22日（日）午前9時～12時

対象：小・中学生・一般

定 員：25名

〔入場者数〕 展示会 1, 792人

文化講座 56人

自然観察会 25人 合計 1, 873人

〔予 算〕 国庫補助を得て、総額5,505,000円。内訳は、諸謝金(44,000円)、旅費(1,157,000円)、需用費(1,004,000円)、通信運搬費(3,300,000円)。

〔展示品目録〕

古代の生物

タルボザウルス頭骨（レプリカ）、コレニア（〃）、プロバクトロサウルス全身骨格（〃）
サウロロフス全身骨格（〃）、恐竜の卵の化石（〃）

沖縄の生物

〈剥製〉

イリオモテマネコ、セマルハコガメ、キンバト、ケナガネズミ、ヤンバルクイナ

〈ドイツ箱昆蟲標本〉

テナガコガネ他

〈写真パネル〉

クロイワトカゲモドキ、キンバト、ホルストガエル、ナミエガエル、ケラマジカ、リュウキュウヤマガメ、アカヒゲ、コノハチョウ、ケナガネズミ、テナガコガネ、ヤンバルクイナ、カンムリワシ、イリオモテヤマネコ、アサヒナキマダラセセリ、ダイトウオオコウモリ、ノグチグラ、イボイモリ

久米島の自然と歴史文化

【久米島のなりたち】

約500～130万年前の久米島地質模型、イタヤガイの化石、約120～12万年前の久米島地質模型
輝石、約9万年～現在の久米島地質模型、輝石をふくむ黒砂、変質安山岩（グリーンタフ）、
サンゴ化石、輝石安山岩、カキ（現生種）、リュウキュウジカ化石、下地原洞人（肋骨・脊椎
骨・上腕骨他）〔東京国立科学博物館所蔵〕、港川人頭骨レプリカ

〈写真パネル〉

変質安山岩（グリーンタフ）、疊石、ダブルノッチ、クロスラミナ、立神、硫黄岳、阿嘉のヒ
ジ水

【島の地形、地質】

鳥島の岩石、硫黄、石臼〔久米島博物館建設委員会所蔵〕

【久米島の植生】

オオイシカグマ、ミズスギ、テツホシダ、カレンコウアミシダ、ナンヨウリュウビンタイ、
コシダ、ナンカイイタチシダ

〈写真パネル〉

イタジイの花、カレンコウアミシダ、オオイシカグマ

【久米島の生物】

オオサワガニ、モクズガニ、アオカナヘビ、コツノテナガエビ、ウシガエル（レプリカ）、ミ
ナミテナガエビ、オオサワガニ（レプリカ）、コンシンテナガエビ、オキナワミナミサワガニ

(レプリカ)、オオサワガニ、ヘリグロヒメトカゲ、ヒラテテナガエビ、アカテガニ、クロヨシノボリ、カクレイワガニ、カワニナ、ドイツ箱（キセンヤンマ他）、ミゾレヌマエビ、ウシガエル、トゲナシヌマエビ、ヒゲクラスポ、アラモトサワガニ、ルリボウズハゼ、オキナワミナミサワガニ、ヒナハゼ、ドイツ箱（テングチョウ他）、ウナギ、ドイツ箱（ムシスジコガネ他）、オオナギ、ドイツ箱（トビモンオオエダシャク他）、インコハゼ、ドイツ箱（マダラコオロギ他）、テンジクカワアナゴ、ドイツ箱（ルリムネオオニジゴミムシダマシ他）、カワセミ、ハイ、リュウキュウヨシゴイ、リュウキュウアカガエル、ヌマガエル、オキナワキノボリトカゲ、ヌマガエル、ミナミヤモリ、オキナワアオガエル、ヒメハブ、オキナワアオガエル、ヘリグロヒメトカゲ、モザンビークテレピア、ヘリグロヒメトカゲ（レプリカ）、ギンブナ、ニホンヤモリ、ソードテール、バン、ニホンカジカカエル、ヒヨドリ、ブルーギル、キジバト、ヒメアマガエル、セッカ、タウナギ、ハブ、ドイツ箱（カバマダラ他）、オオウナギ、ドイツ箱（チョウセンカマキリ他）、ウグイス、アオバズク、メジロ、白瀬川の自然ジオラマ

〈写真パネル〉

ウシガエル、ミフウズラ、カブトムシ、河川河口（錢田川）、キノボリトカゲ、アカショウビン、イソヒヨドリ、ハブ、オオムカデ、オキナワチョウトンボ、アカマタ、コンシンテナガエビ、カワセミ、山地森林（阿良岳の森林景観）、コシプトンボ、オキナワアオガエル、山地森林（宇江城岳の林内）、オナガガモ、農耕地（キビ畑）、リュウキュウルリモントンボ、ショウジョウトンボ、オオゴマダラ、リュウキュウアカガエル、オキナワツノトンボ、クルマバッタ、オオサワガニ、シロチドリ、コバネコオロギス、ヒラタクワガタ

【久米島の貴重な生物】

ドイツ箱（クメジマボタル標本）、クメトカゲモドキ（5倍拡大レプリカ）、ドイツ箱（久米島に生息している陸性のホタル）、アマミヤマシギ、キクザトサワヘビ、アマミヤマシギのヒナ、クロイワトカゲモドキ

〈写真パネル〉

生息地、群舞、クメトカゲモドキ、幼虫、キクザトサワヘビの生息地、アマミヤマシギ、成虫、クメトカゲモドキの生息地、キクザトサワヘビ

【久米島の名勝・天然記念物】

〈剥製〉

カラスバト

〈写真パネル〉

カラスバト、五枝の松、宇根の大ソテツ、リュウキュウヤマガメ、比屋定バンタ

【故喜久里教達氏の遺品】

沖縄師範学校卒業アルバム〔喜久里教明氏所蔵〕、胴乱〔〃〕、沖縄植物誌〔〃〕、ノート類、帽子〔〃〕、ルーペ〔〃〕、新聞切り抜き〔〃〕、万年筆〔〃〕

〈写真パネル〉

若かりし頃の喜久里教達氏

【遺跡から見た久米島】

石斧（北原貝塚）、貝塚人が食料として食べた貝、ホラガイ製容器、尖底土器（ヤジャーガマ遺跡）、シャコ貝製貝皿（北原貝塚）、カムミヤキの壺（ヤジャーガマ遺跡）、イモガイ科製臼玉（北原貝塚）、炭化米・麦（下原原洞穴遺跡）、石斧（ウルル貝塚）、貿易陶磁片（具志川グスク）、石斧（大田辻遺跡）、石皿、石斧（謝名堂貝塚）、磨石、ゴホウラ製貝輪（北原貝塚）〔県教育庁文化課所蔵〕、貝輪／ウミギクガイ（清水貝塚）〔県教育庁文化課所蔵〕、ジュゴン肋骨製品（大原貝塚）〔〃〕、貝輪／サラサバティ（清水貝塚）〔〃〕、五銖銭

(第二貝塚B地点)〔〃〕、貝輪／オオツタノハガイ製(北原貝塚)〔〃〕、開元通寶(北原貝塚)〔〃〕、貝輪／ウミギクガイ製(北原貝塚)〔〃〕、貝匙〔〃〕、貝輪／サラサバティ製(北原貝塚)〔〃〕、スイジガイ製利器(北原貝塚)〔〃〕、貝符〈貝札〉(清水貝塚)〔〃〕、貝鏃(北原貝塚)〔〃〕、貝輪／イモガイ科製(清水貝塚)〔〃〕骨製品(清水貝塚)〔〃〕、貝輪／ゴホウラガイ製(清水貝塚)〔〃〕、貝斧(清水貝塚)〔〃〕、伊波式土器(北原貝塚)〔〃〕、貝包丁様製品(大原第二貝塚B地点)〔〃〕、無文土器(北原貝塚)〔〃〕、螺蓋製こう打器(清水貝塚)〔〃〕、石斧(清水貝塚)〔〃〕、貝製漁網錘(清水貝塚)〔〃〕、壺形土器(清水貝塚)〔〃〕、フデガイ科製品(北原貝塚)〔〃〕、青磁碗(宇江城城跡)〔〃〕、貝輪／オオツタノハガイ製(清水貝塚)〔〃〕、青磁皿(宇江城城跡)〔〃〕、碇石〔仲里村教育委員会所蔵〕

【海外交流の要】

琉球明細総図、「中山伝信録」/1719年、琉球国新建姑米天后宮碑記、琉球三省並三十六島図渡闡航路図、掛床「福」(全魁筆)〔喜久村翠弘氏所蔵〕、紙本墨書・五言絶句(李鼎元筆)〔上江洲智泰氏所蔵〕、指南広義〔上江洲智泰氏所蔵〕、紙本墨書・七言絶句(謝曇筆)〔〃〕、紙本著色・西洋船の図〔〃〕、紙本着色・進貢船の図〔〃〕、扁額「煙霞富貴」(徐葆光)〔〃〕

〈写真パネル〉

奉使琉球図より、遠見番所跡、藏元跡(仲里)、天后像、具志川間切蔵元移転碑、天后宮、方位石、真謝港(現在)

【王府と久米島】

拓本「世済其美」〔上江洲智泰氏所蔵〕、絹黄色地緯錦帶〔〃〕、「世済其美」由緒書〔〃〕、黄冠(ハチマチ)〔〃〕、唐茶製法伝授書〔〃〕、苧麻浅地上衣〔〃〕、「久米島上江洲家の求めにより詩を賦す」(津波古政正筆)〔〃〕、壺(箱付き)〔〃〕、覚(公務日誌書)〔〃〕、茶筒〔〃〕、「上江洲家の茶に寄す」(楚南親雲上筆)〔〃〕、籠甲製の茶匙〔〃〕、御支配御竿入帳票畠成田方取立帳〔〃〕、甕(シユロ繩付き)〔〃〕、家記(父母記)〔〃〕、紙本墨書・和歌三首(上里親雲上盛恕筆)〔〃〕、丸櫃(ハチマチ入れ)〔〃〕、木綿白地足袋〔〃〕、琉球国志略〔〃〕、紙本著色・寿老人(伝自了)〔〃〕、元通信從業員沖縄戦記〔〃〕、紙本墨書・和歌二首(宜湾朝保筆)〔〃〕、覚〔〃〕、紙本墨書・和歌三首(普天間助蔵筆)〔〃〕、口上覚〔〃〕、紙本墨書・和歌十一首〔〃〕、綠冠(ハチマチ)〔〃〕、絹緑地紗綾胴衣〔〃〕、絹青地綾織帶〔〃〕、木綿黒地帯〔〃〕、四流旗(苧麻白地)〔〃〕、絹浅地緞子帯〔〃〕、絹芭蕉ハカマ〔〃〕、絹芭蕉胴衣〔〃〕、紙本著色・片目地頭代肖像画〔喜久村翠弘氏所蔵〕

【この島】

字座池の碑(拓本)、琉球明細総図、ハル石〔仲里村教育委員会〕、仕明請地帳〔喜久村翠弘氏所蔵〕、紙本淡彩・久米島水路図、針図(水路図)〔上江洲智泰氏所蔵〕、久米具志川間切西銘村名寄帳〔〃〕、仕明請地帳〔〃〕、水路図(大溝針図)〔〃〕

〈写真パネル〉

水田風景(現在)、大田池(現在)、水田風景(G. H. カー)、水田風景一水路一(1960年頃)西銘部落東方の水田風景(1960年頃)、大田池の碑、仲地川周辺の迫田、字座池

【久米島の農業】

つぎはぎの普段着、先鉄刀田打金秋(ミングェー)、先鉄刀田打鋤(ミングェー)〔久米島博物館建設委員会所蔵〕、脱穀管(クーラ)〔〃〕、スコップ改良鋤〔〃〕、唐竿(クルマ

ポー）〔〃〕、変形平鋸（ミーフガー）〔〃〕、犁（ウィザイ）〔〃〕、開墾用鋸（トングエー）〔〃〕、木臼〔〃〕、均し鎌（スルイタ）〔〃〕、堅杵〔〃〕、均し板（スルイタ）〔〃〕、クバガサ〔〃〕、糲均し（シニカチャーサー）〔〃〕

【久米島の漁業】

サバニ小型模型（ハギ舟）、ユートウイ、サバニ小型模型（くり舟）、櫂（ウェーク）〔久米島博物館建設委員会所蔵〕、テーランプ〔〃〕、又手網（サディ）〔〃〕、薬きょうで作ったテーランプ〔〃〕、砂金取り容器〔〃〕、鋸（海用1本歯）〔〃〕、ユートウイ〔〃〕、ヤナワヤー〔〃〕、海フゾウ〔〃〕、海ディール〔〃〕

【久米島の風水】

断易大全〔吉浜龍夫氏所蔵〕、干支一覧〔〃〕、羅針（羅盤）〔〃〕、卜筮正宗〔〃〕、錢〔〃〕、宅墓二十四山分金〔〃〕、籤（一式）〔〃〕、選擇記〔上江洲智泰氏所蔵〕、羅盤（円形）〔〃〕

〈写真パネル〉

上江洲家の墓（3番目）、上江洲家住宅（正門）、美里川之墓、上江洲家住宅（南東面）

【君南風と神女】

君南風の勾玉〔山里桂樹氏所蔵〕、君南風の簪〔〃〕

〈写真パネル〉

君南風殿内、旧6月25日ウマチー、君南風殿内の儀式、唐草文様沈金丸櫃、君南風（友利安徳氏撮影）〔上江洲均氏所蔵〕、緑漆鳳凰雲点斜格子沈金丸櫃〔山里桂樹氏所蔵〕、黒漆双鳥菊米七宝繫沈金丸櫃〔〃〕

【近現代の久米島】

今日の琉球（第9巻、第12巻、4号～12号）、オキナワグラフ（7 1960）、今日の琉球（第12巻、1968年1号～12号）、今日の琉球（11巻、7号、1967年7月、1～12号）、今日の琉球（第7巻、7号）、沖縄県訓令第28号、今日の琉球（第11巻、9号）、久米島新聞（一括）、沖縄写真帖、久米島軍政府金券、オキナワグラフ（8 1960）、久米島切手、久米島関係新聞資料〔久米島新聞所蔵〕、久米島事情〔仲里村教育委員会所蔵〕、「久米島紀行」（コピー）〔〃〕、硫黄島古地図〔七嶽会所蔵〕

【久米島と紬】

御絵図（複製）、久米島紬裂（格子）、久米島紬裂、紬見本帳、久米島紬裂（経縞に絣）、御絵図（道光十八年成二月久米島江）、久米島紬裂（経縞絣）、「調文」（写し）、久米島紬裂（経縞絣）、褒状（山里ナベ氏へ）〔山里桂樹氏所蔵〕、久米島紬裂地帖〔上江洲智泰氏所蔵〕機織関係道具（櫛・小管・芭蕉糸・絹糸）〔〃〕、久米島紬絣模様図案〔〃〕、メーディーシー〔久米島紬事業協同組合所蔵〕、泥染めの糸〔〃〕、紬糸と糸入れ〔〃〕、マヌカリ〔〃〕、平糸、カナカケ〔〃〕、た糸（一括）、ワク、杵、染料見本（グール）、染料見本（ティカチ）

〈写真パネル〉

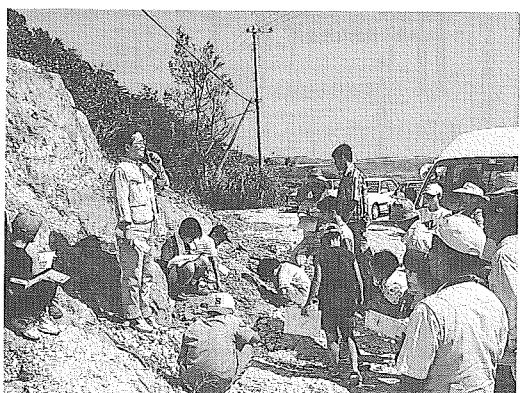
久米島紬制作工程図、泥染、整織、真綿を紡ぐ、乾燥、キヌタ打ち、絣用の種糸をつくる、整経、くくられた絹糸、絣をくくる



開会式風景



展示風景

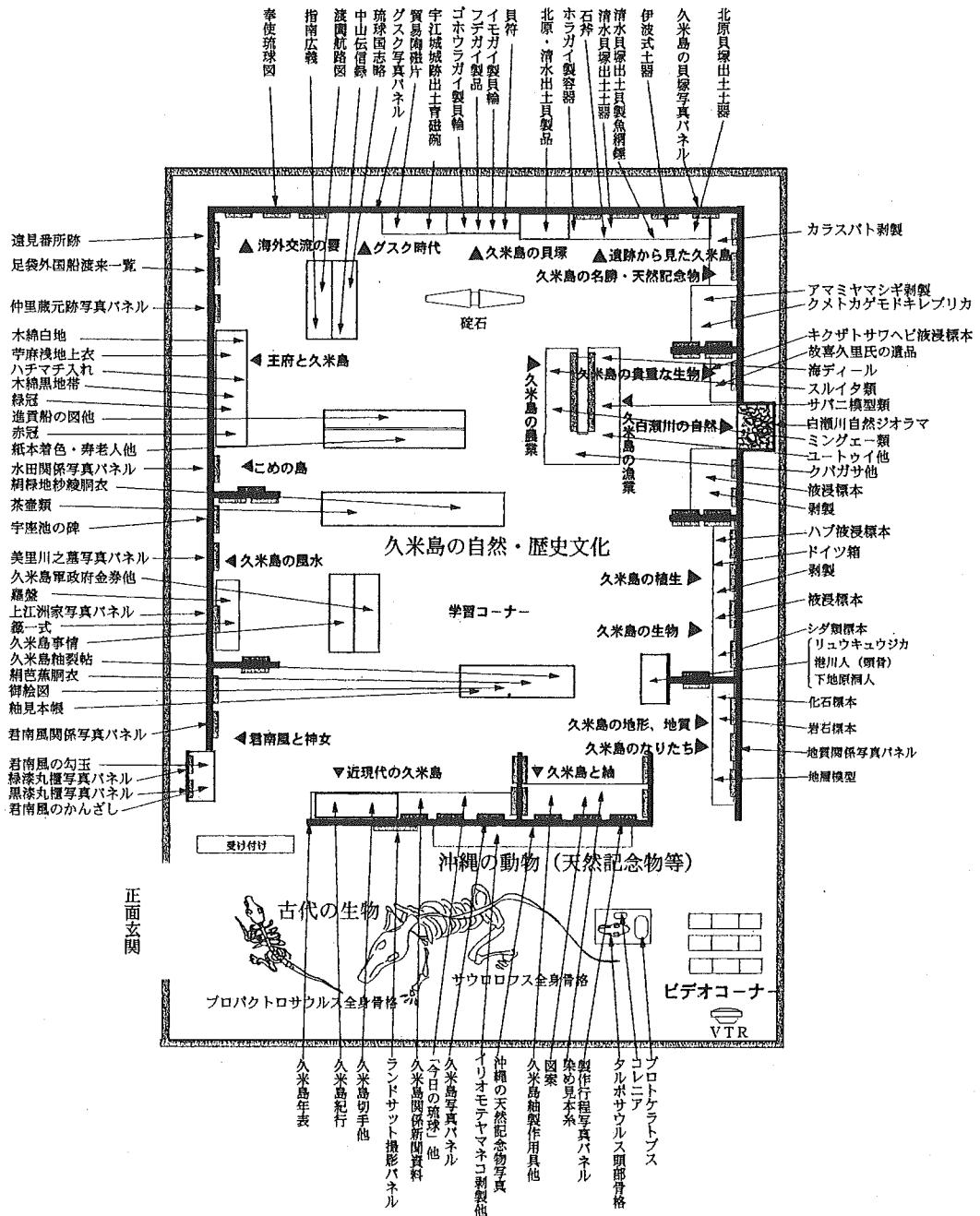


自然観察会風景



文化講座風景

第21回 移動博物館
展示略図
(具志川村農村環境改善センター)



V 教育普及活動

1 活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命とすると同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地域における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とくに最近の傾向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的をもって来館している。

このような来館者の要求に少しでも多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう、戦後50年を迎えるにふさわしい内容等も取り上げながら、多彩な事業を計画し実施してきた。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（260回～269回までの10回）
2. 第21回移動博物館（久米島）の開催
3. 夏休み「歩く・見る・作る」教室の実施
4. 子ども体験学習教室の実施
5. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
6. ボランティア活動事業
7. 博物館を利用する団体への研修
8. 観覧者への展示解説
9. 学校による博物館学習の事前打ち合わせ
10. 児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
11. 児童生徒への学習相談
12. 団体見学者へのビデオサービス
13. 博物館事業のマスコミ等への広報活動
14. 友の会への指導や援助

2 博物館文化講座

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすい内容で楽しく学習ができる目的で1974年から始まった事業である。原則として、毎月第3土曜日の午後2時30分から4時30分までの2時間を利用し、当館講堂にて行なっている。

1996年度は10回の講座を実施した。野外で行なった「グスクめぐり」「干潟の鳥の観察」「歴史の道をあるく」「星座観察会」の講座は人気があり、すぐに定員に達する状況であった。展示会と関連した「久米島～しづん・ひと・ものを語る～」「結びについて～算算を中心に～」「沖

繩県の博物館50年史」は、展示の内容をより理解する上で意義深いものであった。当館所蔵の収蔵品を解説する「収蔵品解説会」は、普段なかなか間近で観ることのできない資料にふれることができるとあって好評だった。波照間総合調査に関連した「波照間のことば」では“ことば（方言）”についてということで高年齢層の関心を引き、参加者の大半も年配の方々が占めていた。

第260回 「グスクめぐり～中城～」

講 師：當眞 嗣一（当館主幹兼学芸課長）

日時・場所：4月20日（土） 中城城跡

内 容：中城城跡を見学しながら、グスクの縄張りや石垣等について具体的に学んだ。

参 加 者：45名（定員あり）

第261回 「干潟の鳥の観察」

講 師：与那城義春（当館指導主事）

嵩原 建二（当館指導主事）

日時・場所：5月18日（土） 漫湖干潟

内 容：干潟に渡来する野鳥の観察を通して、干潟の生態系や沖縄の干潟の地理的重要性を学んだ。

参 加 者：30名（定員あり）

第262回 「波照間のことば」

講 師：加治工真市（県立芸術大学教授）

日時・場所：7月13日（土） 当館講堂

内 容：波照間方言を奈良時代日本語音韻と比較し、南方諸言語との関係や八重山諸方言との比較を基に特色を述べた。

参 加 者：57名

第263回 「久米島～しぜん・ひと・ものを語る～」

講 師：上江洲 均（名桜大学教授）

日時・場所：8月17日（土） 当館講堂

内 容：独特の自然風土に根ざした久米島の多彩な歴史と文化を民俗学的な視点から語った。

参 加 者：250名

第264回 「結びについて～藁算を中心に～」

講 師：栗田 文子（日本民俗学会会員）

日時・場所：10月26日（土） 当館講堂

内 容：結びの研究を通して、沖縄の結縄（藁算）との出会いから復元にいたるまでの経過を説明した。

参 加 者：68名

- 第265回 「星座観察会」
講 師：神谷 厚昭（当館指導主事）
日時・場所：11月9日（土） 当館講堂及び玉城グスクロード沿い公園
内 容：スライド・O H Pによる説明及び肉眼・望遠鏡による星座と天体の観察会を行なった。
参 加 者：40名（定員あり）
- 第266回 「沖縄県の博物館50年史」
講 師：池田 榮史（琉球大学教授）
日時・場所：12月14日（土） 当館講堂
内 容：沖縄県の戦後の博物館の歴史をひもときつつ、博物館等の施設が果たしてきた役割・意義について講演した。
参 加 者：39名
- 第267回 「歴史の道を歩く～真珠道まーい～」
講 師：萩尾 俊章（当館学芸員）
日時・場所：1月18日（土） 首里周辺
内 容：首里近郊の歴史的な道を歩きながら、史跡や名勝・文化財にふれることで歴史の追体験を行なった。
参 加 者：40名（定員あり）
- 第268回 「収蔵資料解説会～厨子甕を中心に～」
講 師：太田 健一（当館指導主事）
日時・場所：2月15日（土） 当館講堂
内 容：洗骨儀礼を特徴とする沖縄の葬制を、厨子甕資料を中心に紹介した。
参 加 者：50名（定員あり）
- 第269回 「収蔵資料解説会～紅型の型紙を中心に～」
講 師：與那嶺一子（当館学芸員）
日時・場所：3月15日（土） 当館講堂
内 容：当館所蔵の紅型型紙の文様、銘文などを通して、沖縄の伝統工芸である紅型について解説した。
参 加 者：60名

3 夏休み「歩く・見る・作る」教室

夏休みは、子どもたちが学校を離れ自ら様々なことを学ぶことができる絶好の機会であり、同時に親子の触れ合いを深める機会が持てる“時”でもある。この事業は、この様な夏休みを親子で有意義にすごし、あわせて郷土の文化を学ぶ場を提供することを目的に1991年から実施されている。原則として、夏休み期間中の土曜日または日曜日の午前9時から午後1時までの4時間とし、場所の指定がない場合は当館講堂を利用している。

1996年度は、「親子でスケッチをしよう」と「カーサムーチーを作ろう」の2つの教室を開催した。

「親子でスケッチをしよう」は、子どもたちにとって絵の描き方を学ぶ良い機会であった。4時間という少ない時間のため、スケッチの仕方を学ぶことが中心であった。終りには品評会を行ない、次に絵を描く際のアドバイスを一人ひとりに行なった。

「カーサムーチーを作ろう」は、石臼を使った伝統的手法で行ない大変好評であった。また、当日の様子が30分番組としてテレビで紹介されたことで、参加者以外の家庭でも、その由来など沖縄の伝統行事のひとつを垣間見る機会が提供できたのではないだろうか。

「親子でスケッチをしよう」

講 師：瑞慶山 昇（当館指導主事）

日時・場所：8月18日（日） 当館講堂及び龍潭周辺

内 容：親子で野外に出て、スケッチの仕方を学んだ。

参 加 者：親子10組20名（定員あり）

「カーサムーチーを作ろう」

講 師：仲底 善章（当館指導主事）

日時・場所：8月25日（日） 当館前庭

内 容：沖縄の食文化について、カーサムーチー作りを通して学んだ。

参 加 者：親子10組34名（定員あり）

4 博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会等を内容とし、県立博物館講堂において午後2より実施している。

シリーズ〔夏休み親子シアター「アニメでみる日本の名作」〕

第25回 期 日：7月21日（日）

映 画：宮沢賢治原作「注文の多い料理店」23分、「風の又三郎」30分

内 容：「注文の多い料理店」は宮沢賢治の生誕100年を記念して制作された作品で、自然、植物、動物と人間とが一体となって人間社会とのふれあいに対する切実な願いと言うものがテーマにされた作品。また、「風の又三郎」は、詩情豊かな宮沢賢治の童話の世界を、映像の魔術師と言われる監督のりんたろうが、まったく新しい表現手法で不思議な映像に仕上げた作品の2本を上映した。

入場者：134名

第26回 期 日：8月11日（日）

映 画：夏目漱石原作「我が輩は猫である」

内 容：夏目漱石の名作を、楽しいアニメーションで描いた作品、「我が輩は猫であ

る」を上映した。

入場者：176名

第27回 期 日：8月24日（土）

映 画：太宰治原作「走れメロス」68分

内 容：太宰治原作の、古代ギリシャ・ローマ時代を舞台にした、感動の文学を美しいアニメで描いた作品を上映した。

入場者：127名

シリーズ〔現代中国映画祭〕

第28回 期 日：11月2日（土）

映 画：「青い凧」138分

内 容：毛沢東中国の激流を旅したある家族、そして三度の結婚を余儀なくされた母の肖像を描いた作品で、監督／田壯壮（ティエン・チュアンチュアン） 中國・香港合作 '93東京国際映画祭グランプリ、主演女優賞、「93シカゴ映画祭最優秀監督賞、「93ハワイ国際映画祭グランプリ受賞作を上映した。

入場者：103名

第29回 期 日：11月16日（土）

映 画：「北京好日」98分

内 容：老人達を主人公にした北京の風情、北京の人情を素敵に活写した映画で監督は、イタリア留学7年、アカデミー賞を受賞した「ラストエンペラー」の制作で知られる、ベルトルッチの助監督もつとめた新世代、女性監督寧瀛（ニン・イン）。'93東京国際映画祭ヤングシネマグランプリ・ゴールド賞、「93ナント三大陸映画祭グランプリ・主演男優賞・アジア映画賞等を受賞した作品を上映した。

入場者：93名

第30回 期 日：12月15日（日）

映 画：「哀戀花火」117分

内 容：パワフルな映像で、新しく希望に満ちた中国映画の時代を感じさせる青春ドラマ。監督／何平（ホー・ピン）、「94年ベルリン国際映画祭青年論壇賞受賞作を上映した。

入場者：86名

5 子ども体験学習教室

<事業の経過>

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度から博物館の新規事業として開始され本年度で5年目に入りました。

<趣 旨>

平成4年度から第2土曜日が学校休業日になり、さらには平成6年度からは第4土曜日も学校休業日となりました。それにともない子どもたちの活動の機会も増えてきた。当館でも「休業日」

を利用して子どもたちが郷土や自然、文化を自ら進んで学べるように平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験の乏しくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し、心豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

<実施講座>

「川をさぐろう」

講 師：下地 邦輝（沖縄県環境保健部自然保護課主査）

期日・場所：5月11日（土）、5月25日（土）、6月8日（土）当博物館講堂

参 加 者：のべ168名

内 容：川の調査の仕方を学習後、実際に野外にて、調査をして、自由研究への活用の仕方を学んだ。

「グスクをたずねて」

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館学芸課長）

期日・場所：7月13日（土）、7月27日（土）、8月10日（土）当博物館講堂

参 加 者：のべ182名

内 容：沖縄のグスクについて、その特徴を学び、首里城や中城城・勝連城を実際に探検をして、自由研究に役立てた。

「ふうたんを作ろう」

講 師：上運天賢盛（元沖縄県警察学校指導教官）

期日・場所：9月14日（土）、10月12日（土）、11月9日（土）当博物館講堂

参 加 者：のべ169名

内 容：ふうたんのしかけについて学び、その後製作に入った。自主的にふうたんを揚げる扇づくりまで完成させた受講生もいた。

「わら算を作ろう」

講 師：外原 淳（沖縄玩具伝承友の会代表）

期日・場所：12月14日（土）、1月11日（土）、1月25日（土）当博物館講堂

参 加 者：のべ102名

内 容：わら算の仕組みやその使い方を学んだ後、「わらないの練習」から入り、実際のわら算を「人口算」で作り上げた。

6 ボランティア活動

<ボランティア活動の事業の経過>

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これにもとづき教育ボランティアと資料収集ボランティアの育成に努めてきた。

教育ボランティアは、展示解説、文化講座、体験学習教室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。

資料収集ボランティアは調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。

ボランティアとして登録できるものは、原則としてボランティア養成講座を修了した者とし、

登録後は解説勉強会で研修を受けながら、活動を続けてきた。

<趣旨>

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。このような時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とすることを目的として、本事業を実施した。

<事業の実施>

平成7年度も県教育庁生涯学習振興課主催の教育ボランティア養成講座の運営に参画し、その修了者の中からボランティアの登録を進めていった。

1. 教育ボランティア養成講座（受講者：66名）

「手話活動とわたし」

講 師：知念喜代子（手話通訳士）
期 日：7月10日（水）
内 容：手話通訳士としての関わりの中から、障害者との感動的な触れ合いの数々
手話活動をすることによって、周囲の方が驚くほど自分自身の生活スタイルに大きな変化があり、毎日が充実した生活で過ごすことができた。
ボランティア活動の楽しさや、社会的意義を学んだ。

「沖縄の葬墓制について」

講 師：名嘉真宜勝（読谷村立歴史民俗資料館館長）
期 日：7月17日（水）
内 容：沖縄における葬制について主に講話され、死の予兆、臨終、湯灌、死装束、死者の位置と供物、喪家に対する援助などについて学んだ。

「沖縄の危険生物」

講 師：新城 安哲（沖縄県衛生環境研究所主任研究員）
期 日：7月31日（水）
内 容：沖縄の危険生物の代表格である「ハブ」については情報が行き届いていて
その対策や応急処置についてはかなり理解されている。しかし、海の危険
生物については情報不十分である。そのことから派生する事故防止には
「危険生物についての知識」を持つことが大切である。

「沖縄の祭祀とノロ」

講 師：太田 健一（沖縄県立博物館指導主事）
期 日：8月7日（水）
内 容：「ノロとユタ」の定義から始まり、沖縄における「神女組織の確立と変遷」、「久米島における祭祀組織」、「久高島の祭祀組織」を映像で学んだ。

「日本統治下の台湾と沖縄移住者」

講 師：又吉 盛清（浦添市民会館館長）
期 日：8月14日（水）
内 容：明治政府による「琉球処分」から、沖縄と植民地になった台湾との関係を
新政府の対外政策の一環として捉える必要があること。その先兵となった
沖縄移住者の台湾における活動状況などを学んだ。

「琉球の服装史」

講 師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）

- 期　　日：8月21日（水）
内　　容：特別展「久米島展」の展示品の衣装資料や李朝実録、冊封史録等から沖縄
服装の特徴とその変遷を写真資料や実物資料などをもとにして学ぶ。
- 「発見に向かわせる解説」
講　　師：前田　真之（沖縄県立博物館教育普及課長）
期　　日：9月11日（水）
内　　容：博物館における解説の手法として、入館者に新たな疑問を持たせる為の解
説が必要なことをスライド等を活用して学習した後、3つのグループに別
れ、展示資料を観察して「質問づくり」をし、それに対する回答を発表し
あって学習を終えた。

2. ボランティアの登録

教育ボランティア養成講座の中から26名（教育ボランティア21名、資料収集ボランティア5名）
が平成9年度登録ボランティアとして登録を行った。

3. ボランティア専門講座

「博物館展示解説の点字翻訳」

- 講　　師：内間 啓子（沖縄県視覚障害者福祉協会 点字指導員）
期　　日：10月4日（水）～1月24日（水）の計6回
内　　容：点字の基本を学び、実際に点字板を使用して点字を打ち込み、それを、実
際に視覚障害の方に読んでもらって、互いの学習成果を確認しあった。

7 博物館を利用した研修

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然について多くのことを学びたいとの要望がたか
まっています。これらの要望は、従来学校などの団体が多数しめてきたが、近年企業などからも
その要望が高まってきている。

平成7年度は、企業などが自ら主催し且つ博物館での展示見学を計画している研修に対して博物
館での講演というかたちで側面的な支援を行ったり、博物館資料を活用した教育委員会の研修
を博物館と共同で企画するなどの取り組みを行ってきた。

<琉球大学教育学部「社会科概説」>

「物の観察から『博物館へおいでよ』を改訂しよう。」

- 期日・場所：1996年7月10日（水） 当館歴史展示室
講　　師：里井　洋一（琉球大学教育学部助教授）
　　　　　：前田　真之（沖縄県立博物館教育普及課長）

<平成8年度第1回 県立高校教職5年経験者研修>

「野外における環境教育の進め方の実際」

- 期日・場所：1996年8月2日（金） 当館講堂
講　　師：嵩原　健二、與那城義春、神谷　厚昭（沖縄県立博物館指導主事）

「博物館における学習」

講 師：仲底 善章（沖縄県立博物館指導主事）

「博物館（学芸員）の仕事」

講 師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）

「大交易時代の琉球と久米島」

講 師：萩尾 俊章（沖縄県立博物館学芸員）

< 沖縄大学「沖縄文化論」>

「沖縄の歴史と美術工芸」

期日・場所：1996年12月3日（火） 当館講堂・歴史展示室

講 師：宜保榮治郎（沖縄大学教授）

< 島尻教育事務所「長寿学園」>

「博物館資料の見方」

期日・場所：1996年12月26日（木） 当館講堂・歴史展示室

講 師：前田 真之（沖縄県立博物館教育普及課長）

「外国の博物館事情」

期日・場所：1997年1月9日（木） 島尻教育事務所

講 師：前田 真之（沖縄県立博物館教育普及課長）

VI 収藏資料

1 収藏資料現在高

平成9年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	602	25,425	6	2	26,035
	動物	1,105	18,225	472	13	19,815
	植物	15	850	0	0	865
美術	絵画	75	518	5	0	598
	書跡	505	861	48	3	1,417
	彫刻	5	113	132	0	250
工芸	陶磁器	442	3,201	249	492	4,384
	漆器	240	201	162	0	603
	染織	1,086	1,493	10	0	2,589
歴史資料	2,105	5,304	334	128	7,875	7,871
考古資料	8	3,583	975	15	4,581	4,581
民俗資料	2,370	1,342	583	78	4,369	4,373
総計	8,558	61,116	2,976	731	73,381	73,381

2 平成8年度(1996)新収藏資料高

平成8年4月1日現在～平成9年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	1			1	
	動物	1	73		74	75
	植物				0	
美術	絵画	1			1	
	書跡		3		3	
	彫刻				0	46
工芸	陶磁器		35		35	
	漆器				0	
	染織	3	4		7	
歴史資料	6	222		54	286	282
考古資料		11			11	11
民俗資料		173	3		172	176
総計	12	521	3	54	590	590

3 平成8年度（1996）新収蔵資料目録

寄贈の部

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
自然史	動物 ヤンバルクイナ他	13	国頭村教育委員会	国頭村
	メボソムシクイ他	5	西里 正善	竹富町
	ホトトギス他	54	沖縄こどもの国	沖縄市
	ニホンイタチ	2	宮平 秀幸	座間味村
	キビタキ	1	沖縄県立教育センター	沖縄市
	ウグイス	2	山城 正邦	具志川市
	カラスバト	1	松田 哲也	具志川市
	メジロ	1	瀬名波 任	那覇市
	ヤマセミ	1	内田 昇	埼玉県
	サシバ	1	与那原町役場	与那原町
美術工芸	書跡 篆書「瞻雲就日」（尚順筆）他	3	Keiko Fukuda	米国
	陶磁器 青磁大皿他	2	Seijun Ifuku	米国
	黒釉油壺他	32	Keiko Fukuda	米国
	宮古式土器	1	宮平 久米男・義子	那覇市
	染織 木綿苧麻格子縞着物他	2	神村 真紀子	浦添市
	絹白地絹緯絣上衣他	2	東恩納 道子	那覇市
歴史資料	幼稚園・小学校・中学校等 写真アルバム他	144	平良 盛寿	那覇市
	齊藤用之助賞勲証他	17	齊藤 用之助	佐賀県
	具志頭王子尚公墓碑拓本	1	沖縄タイムス社	那覇市
	ガラス乾板（首里城竈門と日時計他）	6	矢袋 繁雄	福井県
	「世済其美」（表裏）拓本他	5	崎間 麗進	那覇市
	降伏勧告チラシ（ビラ）	1	金城 光栄	糸満市
	森永ドライミルク看板他	2	上間 正徳	那覇市
	明治16年暦他	20	伊藤 勝一	読谷村
	若夏国体記念オーブナー他	4	喜久川 智子	与那原町
	玉陵の石扉の残欠	1	金城 徳一	那覇市
	李鼎元『使琉球記』（上・下）他	21	島袋 良徳	糸満市
考古資料	磨石の破片	1	喜舎場 朝敬	那覇市
	石斧	1	新垣 善一	北中城村
	石器	1	神谷 厚昭	那覇市
	土器壷	1	島袋 良徳	糸満市
	瓦	7	赤嶺 勉	糸満市
民俗資料	すりおろし金①他	18	知名 定義	那覇市
	木臼他	2	與座 範定	浦添市
	上皿天秤（米国製）	1	与儀 喜邦	那覇市
	中国三弦他	8	村山 盛一	糸満市

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
民俗資料	トニー（石桶）	1	金城 徳一	那覇市
"	液用一升杓他	2	大嶺 清子	那覇市
"	はかり①（金属製）他	4	永田 晃	与那原町
"	コンパクト・カメラ	1	比嘉志津代	北中城村
"	アルミ製弁当箱	1	上江洲 均	那覇市
"	ウチカビ（紙錢）	1	當間 一郎	那覇市
"	カンナ（1）他	47	真喜志 実	豊見城村
"	木彫：キング・オブ・ピッグ他	83	島袋 良徳	糸満市
"	クバジー（他）	4	矢袋 繁雄	福井県

移管の部

分類	品名	数量	提供者名	所在地
歴史資料	琉球政府時代の金庫	1	沖縄県教育庁総務課	那覇市
"	文教局之印他	53	"	"

収集の部

分類	品名	数量
自然史資料	ミフウズラ	1
"	アカハラ	1
"	ヒメハブ	1
"	サキシマハブ	1
"	リュウキュウアオヘビ	1
民俗資料	大竿ばかり①他	3 ※実習船運営事務所より

購入の部

分類	品名	数量
自然史	下地原洞出土の乳児人骨のレプリカ	1
動物	ニホンイノシシ	1
美術	『奉使琉球図』より「冊封宣詔」（レプリカ）	1
染織	草花繫文様紅型衣裳	1
工芸	菊に扇文様紅型衣裳	1
"	南島系絣裂譜	1
歴史資料	久米島金券（10銭）	1
"	日本軍事郵便使用英文ポストカード	1
"	新聞（戦争資料）	1
"	沖縄県工業指導書書類	1
"	戦時中の薬ビン	1
"	戦前の教科書	1
"	米軍撮影沖縄本島航空写真パネル	1

4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成9年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	お も ろ さ う し 混 効 驗 集	22冊 2冊	昭48. 6. 6 "	県立博物館 "	沖縄県 "
工 芸	銅 鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
"	梵 鐘（旧円覚寺殿前鐘）	3口	"	"	"
"	梵 鐘（旧円覚寺殿中鐘）				
"	梵 鐘（旧円覚寺樓鐘）				

県指定文化財（有形文化財）

平成9年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻	木 彫 円 覚 寺 白 象 並 び に 趣 意 書	1躯1枚	昭33. 3. 14	県立博物館	沖縄県
"	世 持 橋 勾 櫛 羽 目	1括	"	"	"
絵 画	絹本著色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
"	紙本著色雪中雉子の図（殷元良筆）	"	"	"	"
"	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	"	昭57. 4. 1	"	"
"	紙本著色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	"	"	"
工 芸	三 線 江 戸 与 那	1挺	昭33. 8. 15	県立博物館	沖縄県
"	聞 得 大 君 御 殿 雲 龍 黄 金 簪	1本	昭33. 3. 14	"	"
"	黒 塗 螺 鈿 遊 雁 絵 大 文 庫	1台	昭31. 12. 14	"	"
"	黒 塗 堆 錦 山 水 絵 大 文 庫	"	"	"	"
"	黒 塗 螺 鈿 雲 龍 文 内 金 箔 蓋 付 椅	3口	"	"	"
"	枝 梅 竹 文 赤 絵 碗	1口	昭54. 9. 3	"	"
"	線 彫 染 付 魚 文 盘	"	"	"	"
"	色 象 嵌 粟 絵 菊 花 盘	"	"	"	"
"	象 嵌 色 差 面 取 抱 瓶	"	"	"	"
"	梵 鐘（旧靈応寺鐘）	1口	昭60. 6. 1	"	"
"	梵 鐘（旧普門禪寺鐘）	"	"	"	"
"	梵 鐘（旧天竜精舎鐘）	"	"	"	"
"	梵 鐘（旧天尊御鐘）	"	"	"	"
"	梵 鐘（旧天妃宮鐘）	"	"	"	"
"	梵 鐘（旧一品種權現鐘）	"	"	"	"
"	銅 鐘 残 欠（旧波之上宮朝鮮鐘）	"	"	"	"
"	梵 鐘（旧大安禪寺鐘）	"	昭63. 1. 12	"	"
"	黒 漆 薔 薇 堆 錦 軸 盆	1枚	平2. 2. 6	"	"
"	黒 漆 山 水 楼 閣 人 物 螺 鈿 机	1脚	"	"	"
"	朱 漆 山 水 楼 閣 人 物 箔 絵 丸 型 東 道 盆	1合	"	"	"
"	朱 漆 巴 紋 牡 丹 沈 金 大 御 供 飯	1口	"	"	"
"	白 密 陀 山 水 楼 閣 人 物 漆 絵 箔 絵 角 盆	1枚	"	"	"
"	梵 鐘（旧永福寺鐘）	1口	"	"	"
"	三 線 盛 鳴 開 鐘	1挺附胴	平6. 3. 15	"	"
典 籍	評 定 所 格 護 定 本 中 山 世 鑑	6冊	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
"	" 中 山 世 譜	19冊	"	"	"
書 跡	程 順 則 の 書	1巻	昭42. 4. 11	県立博物館	沖縄県
"	扁 額 「徳高」 鄭 元 偉 書	1架	平元. 9. 29	"	"
"	扁 額 「凌雲」 林 麟 煙 書	1架	"	"	"
古 文 書	宮古島下地の首里大屋への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
"	明孝宗より琉球國中山王尚真への勅書	1巻	昭49. 11. 11	"	"
"	伊平屋島仲田の首里大屋への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	"	"
"	羽 地 間 切 の 屋 我 の ろ へ の 辞 令 書	1幅	昭56. 3. 20	"	"
歴 史 資 料	安 国 山 樹 花 木 之 記 碑	1基	平元. 9. 20	県立博物館	沖縄県

5 博物館収蔵資料整理事業の概要

1. 収蔵資料整理事業の目的と経過

県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として50年の歴史を持ち、現在72,763点（平成8年10月現在）の資料が収蔵されている。その間には合併と移転、さらには祖国復帰等による機構改革などにより、収蔵資料の整理・登録等の作業に統一性が十分図られていない点がいくつかあった。したがって、平成12年度の新館移転するための作業の一環として、統一性をもった収蔵資料の整理・整頓作業を早急に行い、収蔵資料の未登録や移動にもれがないような効率的作業を行うための準備作業としてすすめられてきた。

また、県民及び来館者のニーズに答えるため、収蔵資料台帳による収蔵資料管理業務を整理し、台帳の電子化（データベース化）作業を進めることで、利用に応じた収蔵資料一覧の作成、資料検索用端末の設置等を整備し、県民へのサービス向上に努めることを目的にその整備が図られてきた。このことは、充実した収蔵資料の画像情報（図版、写真、映像等）により、博物館の収蔵資料を広く来館者に公開するためのデータベースの充実・向上を目指し、情報の共有化と種々の情報ネットワークの形成のための準備段階でもある。

本事業は平成6年度からスタートし、平成9年度までの事業計画であるが、今年度はその3年度目にあたる。

2. 収蔵資料整理事業の内容

資料整理事業は次の3つの作業分野に分けて実施してきた。

(1) 収蔵資料整理作業

収蔵資料の台帳整理・照合・未登録資料の整理登録、整理・整頓作業

収蔵資料へのナンバーリング・写真撮影等

(2) 台帳電子化（コンピュータ化）作業

収蔵資料管理データベースシステムの開発・導入整備・構築

収蔵資料データ入力（文字・画像）

(3) 写真撮影及び写真整理作業・マイクロ化作業

収蔵資料の撮影・古写真の整理

収蔵資料の写真・フィルムの整理・保管

3. 事業実績

事業実績を年度別に概略的にまとめた。

「平成6年度事業実績」（予算額：24,893千円）

(1) 資料整理作業

収蔵資料台帳の整理カードの統一（台帳項目の統一）と各分野収蔵資料の整理（台帳照合及び未登録資料の整理等）がなされた。

(2) 台帳電子化（コンピューター化）作業

収蔵資料管理用データベースシステムの構築（ハード・ソフトの整備）を行い、収蔵資料管理用データベースソフトとして、「マック・ミュージアム」を採用・導入した。

(3) 写真撮影

収蔵資料写真撮影用照明セット購入し、利用や貸し出し頻度の高い重要資料（特に美術・工芸・民俗・歴史・考古等）については、写真撮影を委託して実施した。この写真は、収蔵資料

管理用データベースに取り込んで画像として保存し、資料検索連動して利用できるように入力した。

「平成7年度収蔵資料整理事業実績」概要（予算額：25,209千円）

(1) 資料整理作業

各収蔵資料の整理・整頓（台帳照合及び未登録資料の整理等）を行い、特に民俗資料である「厨子甕」の実測図作成等整理作業を委託して実施した。

◎厨子甕整理業務委託…………厨子甕200基の計測および写真撮影・実測図製作

(2) 台帳電子化（コンピューター化）作業

構築された収蔵資料管理用データベースシステムの試用と点検を行い、収蔵資料に関するデータの蓄積とその他ハードウェアの増設を行った。

◎収蔵資料データベースデータ入力委託…………画像2400件・文字データ2113件

(3) 写真撮影

前年度に引き続き、利用や貸し出し頻度の高い重要資料（特に歴史・民俗等）については、写真撮影を委託して実施した。この写真画像は、収蔵資料管理用データベースに取り込んで保存した。また、一部収蔵古写真の複製・整理・パネル作成作業を委託して行った。

◎未整理の収蔵古写真の複製・整理業務委託…………500件

「平成8年度資料整理事業実績」備品・委託料総括（予算額17,292千円）

(1) 資料整理作業

各収蔵資料の整理・整頓（台帳照合及び未登録資料の整理等）を行い、特に民俗資料である「厨子甕」の実測図作成等整理作業を委託して実施した。

◎厨子甕整理業務委託…………厨子甕200基の計測および写真撮影・実測図製作

(2) 台帳電子化（コンピューター化）作業

構築された収蔵資料管理用データベースシステムの稼働と点検を行い、収蔵資料に関するデータの蓄積（特に画像データ）とその他ハードウェアの増設を行った。また、図書文献資料についても委託して整理及びデータ入力作業をすすめた。

◎収蔵資料データベースデータ入力委託…………画像・文字データ各1500件

◎図書文献資料データ入力委託…………500件

(3) 収蔵古写真整理等委託業務

歴史分野で保管収蔵され、未整理の収蔵古写真の複製・整理・マイクロ作成作業を委託して行った。

◎未整理の収蔵古写真の複製・整理業務委託…………500件

◎歴史資料のマイクロ写真作成業務委託…………29件（1,987カット）

(4) その他

（備品の整備状況）

ニコンストロボ…………1台

パウチ……………1台（ラミネート機器）

オープン書庫…………2台

プリンタ……………2台（モノクロ・カラー各1台）

スライドキャビネット2台等

VII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
平成7年度沖縄県立博物館年報	定期	1,000	B5 (81)	前年度の当館の活動状況や概要
沖縄県立博物館紀要 第23号	定期	1,000	B5 (200)	学芸員の調査研究報告書
特別展「大久米島展 ～しぜん・ひと・もの～」図録	不定期	1,000	A4 (147)	2年間の久米島総合調査の成果を生かした展示会の図録
企画展「ワラザン展」図録	不定期	1,000	B5 (59)	栗田文子氏寄贈のワラザンコレクションを紹介した図録
企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」図録	不定期	1,000	A4 (50)	県立博物館の創立50周年を記念して開催された企画展の図録
沖縄県立博物館50年史	不定期	2,000	A4 (349)	県立博物館の創立50周年を記念して刊行された記念誌
平成7年度新収蔵品展図録	定期	1,000	B5 (12)	平成7年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された資料を紹介する収蔵品展の図録
博物館教育普及書 『遺物より見た沖縄の鉄器文化』	定期	1,000	A4 (80)	考古学からみた沖縄の鉄器文化についてわかりやすくまとめた教育普及書
平成8年度こども体験教室	定期	1,000	A4 (70)	平成8年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習の記録
平成8年度ボランティア活動	不定期	1,000	A4 (111)	平成8年度のボランティア活動記録集
年間行事案内リーフレット	定期	15,000	A4 三つ折	当年度の行事案内
年間ポスター	定期	1,500	B2 変形	当年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定期	25,000	A4 変形	当館の展示内容紹介
移動博物館リーフレット	定期	2,000	B5 (4)	久米島で開催された移動博で展示する資料を紹介したリーフレット
移動博物館チラシ	定期	2,000	B5	久米島で開催された移動博を案内したチラシ
移動博物館ポスター	不定期	100	A2	久米島で開催された移動博を案内したポスター
平成7年度新収蔵品チラシ	定期	2,000	B5	新収蔵品展を紹介するチラシ
企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」チラシ	不定期	1,000	A4	企画展を紹介するチラシ

VIII 沖縄県立博物館50周年記念事業

(担当：萩尾 俊章)

沖縄県立博物館50周年記念事業は下記の企画で事業を推進した。『沖縄県立博物館50年史』の刊行、創立50周年式典、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」展の開催の三本柱である。企画展の内容に関しては「展示活動」において詳述した。

1. 事業の意義及び目的

沖縄県立博物館は平成8年度(1996)4月24日に創立50周年の記念日を迎えた。当館の前身である「沖縄陳列館」は、終戦直後の昭和21(1946)年、米国海軍軍政府により石川市字東恩納に開設されたが、昭和21年(1946)4月24日、沖縄民政府の創設とともに沖縄側に移管されて「東恩納博物館」と改称した。この日を当館の創立の日としている。

その後、「首里市立郷土博物館」と合併して「首里博物館」(1947)と改称、さらに「琉球政府立博物館」(1955)、「沖縄県立博物館」(1972)とめまぐるしい変遷を経て今日に至っている。この間、敷地は石川市字東恩納、首里龍潭の池畔、そして現敷地の旧中城御殿跡地と移転している。さらに、那覇新都心地区(天久)に建設される新館に移転する計画であり、“首里時代”もやがて幕を閉じようとしている。

この大きな節目にあたって、県立博物館の半世紀の歩みを総括して50年史にまとめることは、一般県民をはじめとして、沖縄の歴史研究教育、文化の各方面に貴重な記録を提供し、また、式典を挙行し50周年を祝し、同時に企画展を開催することで、50周年の歩みを振り返り、博物館活動の意義を普及すること、さらに新館への歴史的遺産の継承という目的があった。

2. 事業の内容と実施計画

『50年史』の編集・刊行は、創立年にあたる平成8年内の発刊をめざして2カ年計画でおこなった。

沖縄県立博物館は、1976年に創立30周年を迎え、30周年記念誌の刊行と記念式典を実施しており、これらを含む諸記録は当館に残されている。しかしながら、草創期の記録類はごくわずかな資料でしか知り得ず、とくに「沖縄陳列館」、「東恩納博物館」、「首里博物館」の時代は関係者への資料調査や聞き取り調査が不可欠である。しかも、戦後50年が経過し、関係者には物故者や高齢者も多く、調査は早い時期に行わなければ永久に機会を逸してしまうおそれがあった。

県立博物館の半世紀の歩みを総括して50周年事業として推進するもので、記念事業には三つの主要な内容がある。最初に、50年史の編集事業は、県立博物館の50年間の足跡を正確に記録・整理・編集し、刊行物としてまとめることで、一般県民をはじめとして、沖縄の歴史研究、教育、文化の各方面に貴重な記録を提供する。二番目に式典を挙行し50周年を祝し、三番目に企画展を開催することで、50年間の歩みを振り返り、博物館活動の意義を普及し、新館への歴史的遺産の継承をおこなうことにあった。

3. 50周年事業の経過

(1) 平成7年度(1995)

- ①資料収集及び資料調査(4月～12月)
- ②関係者からの聞き取り調査(4月～平成8年2月)
- ③編集委員会の設置と内容の検討会(9月～12月)
- ④寄稿原稿の依頼及び検収(10月～平成8年3月)
- ⑤「資料編」の原稿作成(10月～平成8年3月)

(2) 平成8年度(1996)

- ①「通史編」の原稿作成(4月～5月)
- ②編集・割付作業(5月～6月)
- ③監修作業(7月～8月)
- ④印刷・製本(9月～11月)
- ⑤企画展及び記念式典の準備(4月～11月)
- ⑥企画展の開催(12月3日～12月22日)
- ⑦50周年記念式典の開催(12月6日)

4. 沖縄県立博物館50年史の監修・編集顧問・編集委員

(1) 監修

仲里 長和(県教育長)

(2) 編集顧問

外間 正幸(元館長)

大城徳次郎(〃)

大城 立裕(〃)

大城 宗清(〃)

宜保榮治郎(〃)

糸数 兼治(〃)

大城 精徳(元職員)

新田 重清(〃)

(3) 編集委員

當間 一郎(館長)

西平 守勝(平成7年度文化課長)

大城 将保(平成8年度文化課長)

上江洲 均(元職員・民俗)

上江洲敏夫(〃・歴史)

宮城 篤正(〃・美術工芸)

知念 勇(〃・考古)

大城 逸朗(〃・自然)

池宮 正治(琉球大学・学術委員／文化財関係)

池田 栄史(琉球大学・学術委員／博物館学)

(4) 事務局

真玉橋長俊(副館長)

當眞 嗣一(学芸課長)

前田 真之(教育普及課長)

上地 泰順(庶務課長)

萩尾 俊章(学芸員)

喜久川智子(平成7年度事務補助)

多良間利絵子(平成8年度事務補助)

5. 関連催事

(1) 沖縄県立博物館50周年記念式典

○期 日：平成8年12月6日（金）
○内 容：記念式典及びレセプション

【プログラム】

1. 期 日：平成8年12月6日（金）
2. 時 間：午後4時30分～午後8時
3. 場 所：沖縄県立博物館
4. 沖縄県立博物館50周年式典（約1時間30分）
 - 時 間：午後4時30分～午後6時
 - 場 所：博物館講堂
 - 司 会：副館長 真玉橋 長俊
 - 1) 開式のことば……………館 長 當間 一郎
 - 2) 記念講演講師紹介……………学芸課長 當眞 嗣一
 - 3) 記念講演……………名桜大学教授 上江洲 均
演題「これからの中の博物館」
 - <小休憩 17:20～17:30>
 - 4) 50年の歩み報告……………県教育長 仲里 長和
 - 5) あいさつ……………県知事 大田 昌秀
 - 6) 感謝状贈呈ならびに
 - 記念品贈呈……………県教育長 仲里 長和
 - 元館長 外間 正幸
 - 同 大城徳次郎
 - 同 大城 立裕
 - 同 大城 宗清
 - 同 宜保榮治郎
 - 同 系数 兼治
 - 7) 閉式のことば……………司 会
5. レセプション（約2時間）
 - 時 間：午後6時～午後8時
 - 場 所：博物館ロビー及び前庭
 - 司 会：副館長 真玉橋 長俊
 - 幕開け（「かぎやで風」）……………千尋会琉舞練場 島袋君子ほか
 - 歓迎のことば……………館 長 當間 一郎
 - あいさつ……………県知事 大田 昌秀
 - 乾杯の音頭……………沖縄県立博物館協議会
会 長 新城 紀秀
 - 閉会のことば……………館 長 當間 一郎



記念式典における仲里長和教育長の50年の歩み報告



レセプションにおける當間一郎館長あいさつ

(2) 企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」

○期　　日：平成8年12月3日（火）～12月22日（日）

○場　　所：沖縄県立博物館企画展示室

○展示内容：戦後の混乱期に創設された当初の博物館にかかる収蔵資料をはじめとして、現在に至るまでの沖縄県立博物館50年の歩みを伝える写真パネル、文書類、出版物を展示するとともに、施設の変遷、収蔵品の増加と展示室の増設などを関連資料で展示し、社会教育の場として当館が果たしてきた役割を紹介した。展示内容については企画展の項目で詳述した。

【実施の経緯と総括】

編集委員会は実質的には平成7年度に3回の委員会を開催し、おおよその骨格はできあがった。平成8年度の委員会は収集された資料を含めて最終的な検討を行った。

沖縄県立博物館50年史の仕様は、規格A4サイズで全349ページである。装丁はクロス表紙・函入で、部数は2,000部を印刷した。

校正は万全を期したはずであるが、やはり誤植やミスがあった。とくに年表では後半に単純なワープロ変換ミスがあり、他の事項を含め、次回にむけて正誤表を作成しておきたい。

また、博物館関係の写真で、登場する職員の名前はその後の補足調査で判明した方もある。さらに、予算の変遷で空白となっていた1974～1979年の間の統計については、その後外間正幸元館長の手元に控えの予算書があることがわかり、当館へ譲り受けた。これらの点については次の機会に向けて内容をより完全なものに近づけたい。

配布は公的な機関、図書館・図書館や県内の小中高校及び大学などに配布した。県外の博物館等の機関には郵送料の不足で、一部の発送にとどまった。今後、機会をみて郵送や配布をおこなう予定である。

50周年の式典およびレセプションの招待者は、これまでに博物館にさまざまな形で携わってきた方々を招待する考えであった。しかし、前年度の予算計上後の段階で話題にあがった食料費の予算執行の問題が大きく影響した。当初は館外の施設を利用した計画案もあったが、予算削減の中で式典とレセプションはすべて博物館施設を利用した計画となった。したがって、実際に案内状を発送した招待者人数は大きく制約され300人余となった。

基本的な招待者の枠組みは館内で数次にわたり検討をおこなった。その結果、県知事、県教育

長、県教育委員（5名）、元県教育長（6名）、県教育庁関係課長（9名）、県教育庁出先機関長（15名）、文化課職員（約15名）、観光文化局文化振興課長、美術館・博物館建設推進室（5名）、沖縄県立博物館新館構想委員会委員（10名）、沖縄県立博物館新館建設委員会委員（14名）、沖縄県立博物館新館展示委員会委員（12名）、美術館・博物館新館公開設計競技審査委員（13名）、沖縄県立博物館新館展示監修委員（13名）、沖縄県立博物館協議会現委員及び歴代委員（約20名）、沖縄県立博物館への資料寄贈者（約10名）、沖縄県立博物館協会役員（17名）、沖縄県立博物館ボランティア会役員（5名）、沖縄県立博物館友の会役員（5名）となり、博物館関係者としては沖縄県立博物館現職員及び元職員などで合計303名であった。これには重複者を除いてある。

当日の式典参加者は約184名、またレセプション参加者は約150名程度であった。式典は博物館講堂を、またレセプションは博物館ロビーを使用して実施した。博物館ロビーでの会場準備は会館中の3時以後から来館者へのお断りをしながらおこない、食事などは委託業者により5時頃から準備された。

当日は東門美津子副知事、仲里長和教育長ほか、元教育長、博物館関係者や旧職員らが多数参加し、賑わった。とくにレセプションでは久々に対面される方々も多く、同窓会的な雰囲気となり、あちらこちらで話題が盛り上がっていた。

博物館新館建設とのかかわりでいうなれば、沖縄県立博物館がここ首里において盛大な式典をおこなうのは今回が最後の大きな節目ともいえる。新館建設が今後どのような方向で進むのかは定かではないが、首里における博物館の一つの画期的事業として50周年記念事業をまとめることはできたと思われる。

IX その他の活動

1 資料貸出

- (1) 展示会名：日本文化のあけばの
主 催：国立歴史民俗博物館
開催場所：国立歴史民俗博物館
貸出期間：平成8年4月1日～平成9年3月31日
貸出資料：考古資料／市来式土器
- (2) 展示会名：'96おきなわ聖書展ベッテルハイム来沖150年記念展
主 催：(財)日本聖書協会
開催場所：パレットくもじ リウボウ6Fホール催し場
貸出期間：平成8年5月7日～5月14日
貸出資料：歴史資料／ベッテルハイム使用の聖書・キリスト宗門改札
- (3) 展示会名：沖縄の夏の祭り・7月～8月
主 催：日本トランスオーシャン航空株式会社
開催場所：那覇空港国内線第2ターミナル内
貸出期間：平成8年7月15日～8月23日
貸出資料：写真パネル／与那原町与那原の綱引き他10点
- (4) 展示会名：南風原町史企画展『ふるさと発見』～南風原町の自然と地理～
主 催：南風原町立南風原文化センター
開催場所：同上
貸出期間：平成8年7月29日～平成8年8月17日
貸出資料：自然史資料／剥製23件・写真パネル39点
- (5) 展示会名：常設ミニ企画「技を伝える－沖縄県指定無形文化財琉球漆器保持者3人展」
主 催：浦添美術館
開催場所：同上
貸出期間：平成8年9月17日～平成9年3月30日
貸出資料：漆器資料3点・歴史資料5点
- (6) 展示会名：沖縄の動植物展
主 催：日本トランスオーシャン航空株式会社
開催場所：那覇空港国内線第2ターミナルビル内
貸出期間：平成8年10月2日～11月1日
貸出資料：写真パネル5点
- (7) 展示会名：「アジアの染織展」
主 催：広島県立美術館
開催場所：同上
貸出期間：平成8年10月9日～平成9年1月29日
貸出資料：染織資料／城間栄喜作品及び平良敏子作品19点
- (8) 展示会名：第32回特別企画展「子どもの世界」
主 催：平良市総合博物館

開催場所：同上

貸出期間：平成8年10月23日～12月10日

貸出資料：歴史資料・民俗資料・美術工芸資料66件・写真パネル54点

(9) 展示会名：1996年全琉切手展

主 催：沖縄郵趣連盟

開催場所：那覇東町郵便局

貸出期間：平成8年11月23日

貸出資料：絵画資料／琉球切手原画9点

(10) 展示会名：企画展「沖縄の古窯 古我知焼」

主 催：名護博物館

開催場所：同上

貸出期間：平成8年10月31日～11月29日

貸出資料：陶器資料／水甕・壺型厨子甕

2 煙蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約7万点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の煙蒸による害虫駆除を行っている。

平成8年度は6月10日から6月14日までの期間をあてて実施した。地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、徳高偏額、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって煙蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。

3 沖縄県立博物館協議会

第1回 日 時：平成8年8月22日（木） 11:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館会議室

1. 会議事項

- (1) 特別展「大久米島展」について
- (2) 新館建設事業について
- (3) 新館建設に伴う博物館事業長期計画について
- (4) その他

第2回 日 時：平成9年3月7日（金） 11:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館会議室

1. 会議事項

- (1) 予算の概要について
- (2) 特別展等事業概要について
- (3) 教育普及事業等概要について
- (4) 新館建設事業について
- (5) その他

沖縄県立博物館協議会委員名簿
(平成8年6月1日～平成10年5月31日)

	氏 名	所 属	職 名
学 識 経 験 者	翁 長 自 修	琉球大学教養部（美術工芸）	教 授
	新城 和 治	“ 教育学部（自然史）	教 授
	金 城 正 篤	琉球大学法文学部（歴 史）	教 授
	嵩 元 政 秀	沖縄考古学会（考 古）	会 長
	上江洲 均	名桜大学国際学部（民 俗）	教 授
学校教育 関 係 者	仲 田 典 爾	前島小学校	校 長
	多和田 真 勇	首里中学校	校 長
社会教育 関 係 者	山 内 晴 子	沖縄県婦人連合会	理 事
	島 袋 光 尋	沖縄県P T A連合会	会 長
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員会議	議 長

4 沖縄県博物館協会

平成8年度の沖縄県博物館協会の理事会、総会並びに春期研修会は、6月7日（金）に南風原町文化センターにおいて開催された。

理事会では、平成7年度事業・決算の報告および承認のあと、平成8年度事業計画と予算案の審議に入り、次の事項について決定した。①来年度は沖博協の設立20周年の年に当たるので、記念式典を行う。期日は7月の予定。総会および春期研修会に併せて実施する。②式典のプログラムについては後日事務局で案を作り理事会で検討する。（主な内容としてレセプション、記念講演、功労者表彰などが考えられる）③20周年式典間に合わせて「博物館ガイドブック」の改訂版（新版）を発行する。そのための編集委員として次のメンバーである。山内平三郎（南都計画株式会社）、園原 謙（県文化課）、平良次子（南風原町文化センター）、名護博物館から一人、根間玄幸（平良市総合博物館）、宮良芳和（石垣市立八重山博物館）、當眞嗣一（沖縄県立博物館）、神谷厚昭（沖縄県立博物館）。ガイドブックについてのめどは、今年中に原稿をまとめる。値段は1000円以内とする。印刷費は分担金を考える。④研修会担当館への補助金として2.5万円を支給する。⑤沖縄国際大学へ大学院地域文化研究科（修士課程）設置についての要望書を出す。総会でもその通りに決まった。

総会は、金城裕昌南風原町文化センター館長の司会のもと、當間一郎沖博協会長のあいさつにはじまり、金城慎一南風原町収入役の歓迎のあいさつ、大城将保県文化課課長の来賓のあいさつを受けたあと、沖博協の功労者として糸数兼治氏沖縄県立博物館前館長、大城豊太郎氏沖縄県立平和祈念資料館前館長の表彰があった。その後、事務局案どうり諸議事が承認され、昼食をはさんで「津嘉山大綱引」の映写会がもたれた。10年ぶりに実施された大綱引の記録映画は、取り組みをしている住民らの熱気が伝わり、見応えのある行事記録の映画であった。

続いて研修会に入り、各館からのアンケートをもとに次の2つの協議題を設定し、協議をした。

(1) テーマ：戦争遺物、特に金属遺物の整備・保管について

戦争遺物（金属遺物）は今時大戦で国内唯一の地上戦を経験した沖縄の博物館では、避けては通れない収集物（遺物）であるという理由からこのテーマを設定した。まず、南風原文化センターと宜野座村立博物館からの報告を受け、その後にフロアからの意見を聴取した。

発言の概要は次の通り。①南風原文化センター（平良）：金属遺物保存の難しさの問題（借用による劣化も含めて）を指摘し、関係各機関・専門家等の意見を要望。また、保存に関して共同施設の設立を提案。②宜野座村立博物館（知名）：戦争遺物の収集の問題点を指摘し、考古学的手法の導入を提案。③琉大（池田）：「戦争遺物が文化財として取り扱い可能か」の間に答えて、「県・市町村の対応の問題。南風原町の壕群は指定し、考古学的に調査をしてある」④沖縄県立平和祈念資料館（平田）：いろいろと試みているが適正な保存方法が見つからない。そのままの状態でぼろぼろになってもよいのかな……と考えることもある。⑤ひめゆり平和祈念資料館（普天間）：簡単なもので、スーパーのビニールパックを参考にできないか？⑥県文化課（園原）：（県立平和祈念資料館に）やはり保存と展示を両立させるように努力すべき。⑦県立博物館（當眞）：戦争に関する埋蔵物（場所）は戦争遺物（遺跡）として、埋蔵文化財ととらえ、考古学的手法で、現在、できる範囲できちんと処理し、整理すべきである。また、戦争遺物・民具などの鉄器類の理化学的処理は可能であるが、金がかかり人がいる、計画的な行政の取り組みが必要である。

(2) テーマ：博物館をトレンディにするには

博物館の近代化というテーマはいつでも成り立つテーマではあるが、「地域と博物館の関わり」に関心が高い今、これから大いに議論すべきテーマではないかということで設定された。まず、竹富島喜宝院蒐集館に報告をしてもらい、いろいろな立場からこれからの博物館についてフロアから意見を述べてもらった。その概要は次の通り。①竹富島喜宝院蒐集館（上勢頭）：観光客増加の割に入園者数が減少していること、エコミュージアムを考える上で「町並み保存」、博物館はエンターティメントを發揮すべき、「沖縄観光における博物館の役割」のタイトルで観光業者も一緒にシンポジウムを、といった数多くの提案がなされました。②焼物博物館（渡名喜）：トレンディとは、小さくてもキラリと光る博物館のこと、つまり、個性的な博物館。焼物博物館は東南アジアを視野に個性的な博物館にしたい。③首里城管理センター（上原）：入園者数150万人／年、4000～5000人／日、展示面で衣・食・住のバランスが取れていない。④今帰仁（仲原）：村・シマ（地域）を意識して活動。つくる側の視点が必要。保存以上に活用が重要。⑤南風原（平良）：基地に関する事と、同じ人が何回も来るようになると、意識の薄い人に意識を持たせること、学校とのつながり、など博物館側の視点が大切。⑥重要文化財中村家（中村）：見せるだけから活用する文化財へ。最初は子供対象に「ユシドーフ作り」から、最近は「一人芝居」、「陶芸展」などに利用し、文化の発信源となるべく頑張っている。⑦名護博物館（山本）：エコミュージアム的視点から。⑧玉泉洞（山内）：観光客が「慰安旅行的」なものから「エコツアーリー」になっている。自然環境が目玉。⑨県立博物館（當眞）：観光客は増えているのに入館者数が減少している問題と、地域に密着した博物館の問題とはどこかで結びついている。今後は博物館の質の変化が必要。

秋期研修会は、伊是名村で開催予定でしたが天候不順で中止になった。

5 博物館実習

県内の2つの大学では、現在、博物館学芸員資格取得のための博物館学の講座が開設されているところである。本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは沖縄国際大学の学生を実習生として受け入れることになり、さらに平成7年度から琉球大学でも同科目が開設されたことに伴い、琉球大学からも実習生を受け入れることになった。

平成8年度は、両大学の依頼により沖縄国際大学12名、琉球大学11名の学生を受け入れて博物館実習を行うことになった。

実施した実習科目と指導学芸員、および実習期間と実習生は下記のとおりであった。

1. 実習科目と指導学芸員

- ①博物館の管理・運営について（當間 一郎）
- ②博物館関係の法規・組織・博物館関係団体について（真玉橋長俊）
- ③博物館の予算・経理について（上地 泰順）
- ④博物館の施設と保存管理（吉里 功）
- ⑤博物館の概要と学芸業務（當眞 嗣一）
- ⑥教育普及の考え方と実際（前田 真之）
- ⑦教育普及活動について（瑞慶山昇、仲底 善章、上原 久）
- ⑧考古資料の取扱実習（當眞 嗣一、上原 久）
- ⑨歴史資料の取扱実習（萩尾 俊章）
- ⑩自然史野外実習（与那城義春、神谷 厚昭、嵩原 建二）
- ⑪美術工芸資料の取扱実習（津波古聰、與那嶺一子）
- ⑫民俗資料の取扱実習（太田 健一）
- ⑬近代絵画資料の取扱実習（瑞慶山昇）
- ⑭資料の受入れ・分類・登録・原簿記載について（與那嶺一子）
- ⑮展示解説の実際と教育普及補助業務について（上原 敏子、喜久川智子）
- ⑯展示の方法（全学芸員）
- ⑰展示資料の撤収方法（全学芸員）

2. 実習期間

○沖縄国際大学

平成8年8月26日（月）～9月6日（金）

○琉球大学

平成8年11月18日（月）～11月29日（金）

3. 実習生

○沖縄国際大学（12名）

東江 克代	文学部社会学科	3年
安次嶺陵子	文学部社会学科	3年
古関 敬士	文学部社会学科	3年
永松 正大	文学部社会学科	3年

譜久村照代	文学部社会学科	3年
宮城 陽子	文学部社会学科	3年
宮里 滉子	文学部社会学科	3年
与那覇友美	文学部社会学科	3年
砂川由起子	法学部第1部法学科	3年
仲宗根直美	法学部第1部法学科	4年
當銘 由嗣	科目等履修生	
金田いぶき	科目等履修生	

○琉球大学（11名）

鈴木美南子	法文学部社会学科社会人類学専攻
東 公平	法文学部社会学科社会人類学専攻
島袋 夏子	法文学部社会学科社会人類学専攻
平良あかね	法文学部社会学科社会人類学専攻
大崎 弓子	法学部史学科東洋史専攻
徳吉真理乃	教育学部総合科学科日本語教育専攻
城間 恒司	理学部海洋学科
森田 彰	理学部海洋学科
田村 常雄	理学部生物学科
伊波 奈月	聴講生（理学部生物学科卒）
當間 麻子	聴講生（法文学部史学科考古学専攻卒）

6 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高め相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから16年目を迎えた。その間会員も増加の傾向にあり、友の会の活動も年間を通しての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。1996年度決算報告書による実績は、13,637,709円であった。また会員は650名、賛助会員8名、準会員が8名（『博友』第11号による）となっている。

1997年5月19日（月）には1996年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動が開始した。

1996年度に実施した活動の概要と事業内容は次のとおりである。

1. 事業

(1) 首里周辺めぐり：6月22日（土）

首里赤平町の旧跡めぐりを宮里朝光氏の解説で実施した。 参加者：22名

(2) 文化施設めぐり：6月29日（土）

佐喜眞美術館の見学会を実施した。 参加者：15名

(3) 星座観察会：7月6日（土）～7月7日（日）

石川少年自然の家で宮城勉氏の解説で星座の観察会を実施した。 参加者：14名

(4) 離島めぐり：7月13日（土）～7月14日（日）

伊江島の史跡めぐりを山城充夫氏の解説で実施、夕食後山城文男氏による「伊江島の芸能」

の講演会を実施した。 参加者：30名

(5) 海外研修旅行：7月27日（土）～8月2日（金）

「中国雲南省少数民族を訪ねて」をテーマに、桂林・昆明・西双版納の研修旅行を宮城昌保氏を講師に招いて実施した。 参加者：19名

(6) ヤンバルの自然めぐり：8月3日（土）～8月4日（日）

ヤンバルの自然観察会を佐藤文保氏の解説で実施した。 参加者：25名

(7) 親子生物観察会：8月31日（土）

末吉公園の夜間生物観察会を佐藤文保氏の解説で実施した。 参加者：28名

(8) 文化キャラバン隊：9月20日（金）～9月22日（日）

移動博物館久米島開催にともない、会場の農村環境改善センターで図録の販売を行う。

参加者：7名

(9) 県外研修：10月11日（金）～10月14日（月）

「江戸上り史跡探索と天女羽衣まつりの旅」をテーマに、萩尾俊章氏を講師に招いて実施した。 参加者：27名

(10) 南部の史跡めぐり：10月27日（日）

南部の史跡めぐりを当間嗣一氏の解説で実施した。 参加者：45名

(11) 首里周辺めぐり：11月16日（土）

首里赤平町の旧跡めぐりを宮里朝光氏の解説で実施した。 参加者：19名

(12) グスクめぐり：11月30日（土）

野村宏、与儀達憲両氏の解説にて、山田グスク、座喜味グスク、中城グスクなどのグスクめぐりを実施した。 参加者：44名

(13) 那覇市内の史跡めぐり：12月1日（土）

識名園の見学会を古塚達朗氏の解説で実施した。 参加者：36名

(14) ヤンバルの自然めぐり：1月11日（土）～1月12日（日）

「冬のカエルの声を聞いてみよう」というタイトルで、佐藤文保、新城安哲両氏の解説で観察会を実施した。 参加者：23名

(15) 首里城見学会：1月25日（土）

首里城の見学会を宮里朝光氏の解説で実施した。 参加者：34名

(16) 展示解説会：2月23日（土）

與那嶺一子学芸員の解説で美術工芸の解説会を実施した。 参加者：20名

(17) 探鳥会：3月22日（土）

雨のため中止

2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業および催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内および文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3. 博物館への援助活動

図書の寄贈（10万円相当）

4. 会誌「博友」・会報「赤い瓦」の発行

5. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売
サービス

6. その他

- サークル活動：歴史サークル、グスクサークル、拓本サークル
- 那覇市主催の「環境フェアー96」に参加（1996年6月28日～6月30日）
- 総会及び懇親会（1996年5月20日） 参加者：63名
- 新年会（1997年1月20日） 参加者：66名

X 日誌抄

(平成8年4月～平成9年3月)

平成8年

- 4月24日 平成7年度定期会計監査～25日
(県監査委員事務局第二課 川平副参事・与座主査)
- 4月26日 宮平敏子(紅型・舞踊衣装の寄贈者)来館
- 5月10日 糸数兼治 県立博物館前館長退職激励会 於: メルパルク
- 5月14日 沖縄県代表監査委員監査
(仲地清純 沖縄県代表監査委員 島袋 護 監査委員事務局参事)
- 5月15日 大久米島展「歴史分野の展示指導」
- 5月17日 大久米島展「民俗分野の展示指導」
- 6月3日 平成8年度博物館職員講習 主催: 文部省・国立教育会館社会教育研修所
- 6月6日 波照間島総合調査「委嘱状交付式・第1回検討会」
- 6月11日 平成8年度燻蒸作業～13日
- 6月25日 博物館新館建設に伴う「第1回基本設計検討会」(博物館)
- 6月27日 博物館新館建設に伴う「第2回基本設計検討会」(博物館)
- 6月28日 波照間島総合調査「歴史関係検討会」
- 6月28日 博物館新館建設に伴う「第3回基本設計検討会」(博物館)
- 7月1日 博物館新館建設に伴う「併任・兼務発令」
- 7月1日 博物館新館建設に伴う「第4回基本設計検討会」(博物館)
- 7月2日 フィロラオ・サマニエゴ・サラサール エクアドル文化遺産公社理事長
マイケル・プレムスライダー ガラパゴス国立公園技術部長
(随行: 我那覇 晃 沖縄県環境保健部自然保護課主幹兼係長他2人)
- 7月3日 博物館新館建設に伴う「第1回基本設計調整会議」
(博物館・文化課・施設建築室・文化振興課)
- 7月10日 博物館新館建設に伴う「第1回展示基本設計調整会議」～12日
(博物館・文化課・トータルメディア)
- 7月17日 石本・二基建築設計事務所による「博物館新館建設・設計説明会」
(博物館・文化課・施設建築室・文化振興課・トータルメディア)
- 7月19日 亀井節夫 徳島県立博物館館長(京都大学名誉教授) 来館
- 7月30日 特別展「大久米島」オープンセレモニー
開会のあいさつ 當間一郎(県立博物館館長)
主催者あいさつ 仲里長和(県教育長)(代理: 島榮孝参事)
共催者あいさつ 野村時雄(具志川村村長)
" 平良曾清(仲里村村長)
" 豊平良一(沖縄タイムス社社長)(代理: 中村博専務取締)
座開きの踊り 波平憲広氏他
テープカット
- 8月2日 三橋友次 奈良県教育委員会・委員長他7人 来館
(金城慎誠 沖縄県教育庁参事兼総務課長)

- 8月2日 平成8年度第1回教職5年経験者研修一行 来館
- 8月6日 博物館新館建設に伴う「第2回展示基本設計調整会議」～8日
(博物館・文化課・トータルメディア)
- 8月10日 特別展「大久米島」関連催事『久米島の芸能公演』
- 8月17日 特別展「大久米島」関連催事『お茶会』
- 8月21日 博物館新館建設に伴う「共用部分調整会議」
(博物館・文化課・文化振興課・施設建築室)
- 8月22日 平成8年度第1回沖縄県博物館協議会
- 8月26日 博物館学芸員実習(沖縄国際大学:学生)～9月6日
- 8月30日 沖縄県立博物館50周年史編集委員会「委嘱状交付・第1回編集委員会」
- 9月10日 券買機稼働
- 9月10日 21世紀のための友情計画・ベトナム青年一行 来館
- 9月12日 博物館新館建設に伴う「第3回展示基本設計調整会議」～13日
(博物館・トータルメディア)
- 9月17日 博物館新館建設に伴う「類似施設調査」～20日
(茨城県・千葉県・徳島県・兵庫県)
- 10月7日 平成8年度九州博物館協議会「第26回学芸員・事務職員研修会」
於:沖縄都ホテル
- 10月8日 九博協「第26回学芸員・事務職員研修会」一行 来館
- 10月22日 企画展「ワラサン展・新収蔵品展」～11月24日
○感謝状贈呈式
○開会式
主催者あいさつ 當間一郎(県立博物館館長)
テープカット
- 10月23日 沖縄県博物館協議会「研修会」※波浪警報発令のため中止
於:伊是名村
- 10月24日 新潟県議会「総務文教委員会」一行 来館
- 10月31日 福田経子氏より「フクダコレクション」贈呈
教育長より福田経子氏へ感謝状贈呈
- 11月6日 第44回全国博物館大会 於:神奈川県
- 11月7日 博物館新館建設に伴う「第4回展示基本設計調整会議」～8日
(博物館・文化課・トータルメディア)
- 11月8日 山口 繁 福岡高等裁判所長官 来館
- 11月16日 平成8年度女性問題国内本部機構上級担当者セミナー一行 来館
- 11月18日 博物館学芸員実習(琉球大学:学生)～29日
- 11月21日 博物館新館建設に伴う「第5回展示基本設計調整会議」～22日
(展示監修委員・博物館・文化課・トータルメディア)
- 11月22日 外国人登録事務協議会全国連合会「理事会」一行 来館
- 12月3日 企画展「沖縄県立博物館50周年展」～22日
○開会式
主催者あいさつ 當間一郎(県立博物館館長)
テープカット 新城紀秀(県立博物館協議会会長)
池原秀光(県立博物館友の会会长)

當間一郎（県立博物館館長）

12月 6日 沖縄県立博物館50周年

○記念式典

記念講演	上江洲均（名桜大学教授）
50年の歩み報告	仲里長和（県教育長）
あいさつ	大田昌秀（県知事）（代理：東門美津子副知事）
感謝状記念品贈呈	仲里長和（県教育長）

○レセプション

幕開け「かぎやで風」	千寿会琉舞練場
歓迎のことば	當間一郎（県立博物館館長）
あいさつ	大田昌秀（県知事）（代理：東門美津子副知事）
乾杯の音頭	新城紀秀（県立博物館協議会会长）

12月 10日 博物館新館建設に伴う「第6回展示基本設計調整会議・小委員会」～25日
(展示監修委員・博物館・文化課・トータルメディア)

12月 10日 和泊町教育委員会・文化財保護審議委員会「関連資料調査」一行 来館

12月 11日 博物館新館建設に伴う「展示室についての調整会議」
(博物館・文化課・施設建築室・石本二基JV)

12月 12日 博物館新館建設に伴う「共用部分調整会議」
(博物館・文化課・文化振興課・施設建築室・石本二基JV)

12月 12日 国立民俗学博物館「職員研修」 来館

12月 17日 物品管理事務指導

12月 17日 國際姉妹校交流プログラム団員一行 来館

12月 17日 神奈川県立歴史博物館「資料調査」 来館

12月 18日 国立歴史民俗博物館「職員研修」 来館

12月 19日 本部町立博物館「視察研修」一行 来館

12月 19日 第9回全国スパレク祭群馬県実行委員会事務局一行 来館

12月 24日 博物館新館建設に伴う「美術館・博物館第1回設計検討委員会」
(委員・博物館・文化課・文化振興課・施設建築室・石本二基JV)

平成9年

1月 7日 新館展示に係る協議「沖縄県立博物館展示構成案」
(博物館・文化課・トータルメディア)

1月 8日 鈴木稔 東京映像アーカイブ エグゼクティブ・プロデューサー他1人 来館

1月 17日 博物館新館建設に伴う「第7回展示基本設計調整会議」
(展示監修委員・博物館・文化課・トータルメディア)

1月 20日 真智睦夫 通信総合博物館・副館長他2人 来館

1月 22日 榎本晶夫 沖縄開発庁振興局振興第一課長他1人 来館

1月 23日 平成8年度沖縄県立博物館防火訓練

1月 23日 田浦宏己 文部省教育助成局財務課教育財務企画室長他2人 来館

1月 28日 長崎 嶽 東京国立博物館・染織室長他2人 来館

1月 31日 駒津健夫 東京芸術大学施設課・課長補佐他1人 来館

2月 5日 馬場悠男 国立科学博物館人類研究部長 来館

2月 6日 大堀 哲 国立科学博物館教育部長他1人 来館

2月 7日 奈良県議会「文教委員会一行」 来館

- 2月7日 新館建設に係る協議「収蔵庫部門の空調設備及び内装・壁面石積」
(博物館・文化課・施設建築室・石本二基JV)
- 2月13日 学校訪問(博物館紹介)実施 ~13日
- 2月19日 斎藤孝正 文化庁文化財保護部美術工芸課文化財調査官 来館
- 2月19日 徳川美術館友の会一行 来館
- 2月21日 登録ボランティア宿泊研修(於:県立糸満青年の家)
- 2月27日 奈良国立博物館「事務研修」一行 来館
- 2月27日 出納事務局会計課「会計事務指導」
- 3月7日 国際交流基金アジアセンター「アジア地域博物館研修ワークショップ」一行 来館
- 3月7日 平成8年度第2回沖縄県博物館協議会
- 3月10日 熊本県裝飾古墳館「研修視察」 来館
- 3月11日 沖縄館「資料」受入準備作業 ~14日
- 3月12日 国立婦人会館「ボランティア活動視察」来館
- 3月12日 郡山市議会議員一行来館
- 3月16日 沖縄県観光コンベンションビューロー
「沖縄県善意通訳友の会・観光地研修」一行 来館
- 3月17日 岡山大学教育学部実習生受入「文書整理(上江洲家文書)」 ~19日
- 3月17日 沖縄県工芸指導所「御絵図帳の閲覧」
- 3月21日 ボランティア解説勉強会「1年間の活動反省」
- 3月27日 沖縄県立高等学校長会「平成9年度博物館事業等概要説明」
- 3月28日 大谷光男 二松学舎大学文学部・教授 他2人 来館
(大東文化大学東洋研究所・所員)
- 3月29日 九州大学「文化財調査」31日
~九州における仏教美術の遍在と偏在―中央様式と地方様式の関係~
- 3月31日 千葉県立中央博物館「資料調査」来館

XI 関係法規抄録

○博物館法 昭和26. 12. 1
法律第285号

〔最近改正〕 平成5・11・12法律第89号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。
(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

(1) 学士の学位を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの

(2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあつたもの

(3) 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者

2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条第1項の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教員委員会に提出しなければならない。

(1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所

(2) 名称

(3) 所在地

- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認められたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

- 2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の義務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。
(経過規定)
- 2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令

昭和27. 3. 20
政令第47号

[最近改正] 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例

昭和47. 5. 15
条例第24号

(抄)

[最終改正] 平成6年12月27日条例第42号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基き、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則 昭和47. 5. 15
教育委員会規則第2号 (抄)

〔最終改正〕 平成8年4月1日教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 昭和47. 5. 15
教育委員会規則第13号

[最終改正] 平成7年5月2日教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申請書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由にいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者

(2) 伝染病患者及びめいていきと認められる者

(3) その他館長が適当でないと認める者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成元年3月31日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則（平成4年8月28日教育委員会規則第7号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則（平成5年2月16日教育委員会規則第1号）

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

附則（平成7年5月2日教育委員会規則第9号）

この規則は、平成7年5月2日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
	住 所
	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種 別	1 種 別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附属品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 時価見積額	7 資料の所在地
8 寄贈の理由	7 寄託期間

受 諸 葉 書	平成 年 月 日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料について では、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
沖縄県立博物館長	平成 年 月 日

博物館資料寄託申請書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申請者
	住 所
	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託ください るよう申請します。	
記	
1 種 別	1 種 別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附属品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 寄託期間	7 寄託期間
8 年 月 日	8 年 月 日

第3号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書	平成 年 月 日	記
殿	沖縄県立博物館長	(印)
平成 年 月 日付け申請のあった博物館の寄託については、下記により受託します。		
1 種別	年	月
2 作者名	年	月
3 作品名	年	月
4 製作年月日	年	月
5 附属品	年	月
6 受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで	
7 備考		

入館料免除申請書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申請者住所
沖縄県立博物館長	氏名 (印)
	電話
下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2第2項に基づき申請します。	
1 入館者 団体名	記
2 入館者数 人	
3 入館日時 年 月 日 (曜日) 時～ 時	
4 申請理由	
年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。	
年 月 日 沖縄県立博物館長 (印)	

第5号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名 印

電話

下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。

記

1 使用者

団体名 及び
代表者名 職業()
住所 電話

2 使用目的

3 使用する施設： 1 ホール 2 臨時陳列室

4 使用する日時及び期間

自：平成 年 月 日 午 時 分()
至：平成 年 月 日 午 時 分 日間

5 予定参加人員 人

6 その他必要な資料（プログラム等）

許 可 書

月 日付申請の()使用の件、申請どおり許可します。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長



○沖縄県立博物館協議会規則

昭和47. 10. 2
教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

昭和47. 5. 15
条例第37号

[最終改正] 平成9年5月20日条例第12号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を越えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成9年5月20日条例第12号）

この条例は、平成9年6月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.30

1997年7月31日発行

編集・発行：沖縄県立博物館

住 所：〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353

印 刷：(合) 精印堂印刷

住 所：〒902 那覇市真地399の3

TEL 098-832-1311

FAX 098-832-8380

1997年度 沖縄県立博物館年間行事一覧

- ◎特別展・アルゼンチンの大恐竜展.....4月25日（金）～6月8日（日）
◎企画展・新収蔵品展.....7月29日（火）～8月31日（日）
◎第22回 移動博物館－与那国町－.....10月17日（金）～10月19日（日）
◎博物館文化講座
 第270回 今なぜアルゼンチンの恐竜か.....5月17日（土）
 講師 長谷川 善和（群馬県立自然史博物館館長）
 第271回 民間の哲学者ユタ～揺れる民俗学的世界観～.....6月21日（土）
 講師 玉城 敏（沖縄民俗学会会員）
 第272回 沖縄島の生き立ち～地層観察会～.....7月19日（土）
 講師 神谷 厚昭（県立博物館指導主事）
 第273回 組踊写本の現状と上演.....8月30日（土）
 講師 當間 一郎（県立博物館館長）
 第274回 近世の学校と試験～科（こう）を中心～.....9月20日（土）
 講師 田名 真之（那覇市歴史資料室主幹）
 第275回 野鳥観察会.....11月15日（土）
 講師 嵩原 建二（県立博物館指導主事）
 与那城義春（県立博物館指導主事）
 第276回 遺跡めぐり.....12月20日（土）
 講師 當眞 翠一（県立博物館学芸課長）
第277回 西南中国の酒と泡盛.....1998年1月17日（土）
 講師 萩尾 俊章（県立博物館学芸員）
第278回 古人骨は語る～沖縄人のルーツ～.....2月21日（土）
 講師 土肥 直美（琉球大学助教授）
第279回 収蔵資料解説会～琉球の絵画～.....3月14日（土）
 講師 津波古 聰（県立博物館指導主事）
◎夏休み「歩く・見る・作る」教室（定員あり）
 ①親子でスケッチをしよう.....1997年8月9日（土）
 講師 田場 健章（神森中学校教諭）
 ②古代人の生活を体験しよう.....8月23日（土）～24日（日）
 講師 仲底 善章（県立博物館指導主事）
◎子ども体験学習教室（定員あり）
 ①豆とサトウキビづくり.....4月26日（土）／8月2日（土）／9月13日（土）／2月14日（土）
 講師 新垣 正宏（翔南製糖農務部技師）
 ②昆虫標本づくり.....5月10日（土）／5月24日（土）／6月28日（土）
 講師 佐藤 文保（ゼロの森の会会員）
 ③シーサーづくり.....7月12日（土）／7月26日（土）／7月27日（日）
 講師 金城 登（首里高校教諭）
 ④連鳳をつくろう.....11月8日（土）／11月22日（土）／12月13日（土）
 講師 上運天賢盛（元沖縄県警察学校指導教官）
◎博物館シアター
 ①映像でみるアイヌ文化
 チセ・ア・カラ～われら家をつくる～.....4月27日（日）
 イヨマンテ～熊おくり～.....5月18日（日）
 アイヌの丸木舟.....6月29日（日）
 ②夏休み親子シアター
 リボンの騎士.....7月27日（日）
 鉄腕アトム.....8月10日（日）
 ジャングル大帝.....8月24日（日）
 ③日本の名作
 砂の器.....12月14日（日）